



安曇野市の埋蔵文化財第22集

平成 31・令和元年度  
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2020. 10

安曇野市教育委員会

安曇野市の埋蔵文化財第22集

Annual report of  
Buried Cultural Property  
in Azumino City  
April, 2019 - March, 2020

平成 31・令和元年度  
安曇野市埋蔵文化財調査報告書

2020. 10

安曇野市教育委員会

表紙写真

小瀬幅遺跡出土土師器羽釜

裏表紙写真

小瀬幅遺跡B地点炭化物検出状況

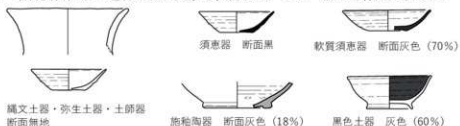
## 例言

- 1 本書は、長野県安曇野市で平成31・令和元年度（2019年4月1日～2020年3月31日）に実施した埋蔵文化財保護事業の報告書である。
- 2 本書の編集は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が行った。執筆は土屋和章が担当し、中谷高志が統括した。
- 3 本書で使用した主な引用・参考文献は、巻末に一括して掲載した。
- 4 本書掲載の調査に関する出土遺物及び事務書類、記録類は安曇野市教育委員会が保管している。

## 凡例

- 1 遺物の法量表示について、観察表中では次のように記載した。  
口径等の「実／復」欄 実：残存箇所を計測した場合 復：図上復元した場合  
器高の「完／残」欄 完：完形資料を計測した場合 残：残存高を計測した場合

- 2 本書実測図で、遺物は次の基準で表現した。また、縮尺は各図に示した。



- 3 土器の記載では、器形について「形土器」の表記を省略した。  
例 甕形土器：甕 高坏形土器：高坏
- 4 土層の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修「新版 標準土色帖」に準じた。
- 5 本書では、平成17年（2005）10月1日の町村合併より前の旧郡名・旧町村名について「旧」を省略し、「東筑摩郡」、「明科町」のように表記した。
- 6 本書掲載の地形図は個別の記載のない場合、安曇野市都市計画基本図（1/2,500）を基図とし、調整したものである。
- 7 文献引用等に際し、各機関の名称を以下のように省略した。  
教育委員会：教委 編集委員会：編集委

# 目次

例言・凡例

目次・挿図目次・挿表目次

第1章 平成31・令和元年度埋蔵文化財保護事業	1
1 埋蔵文化財保護事業の概要	1
第2章 小規模発掘調査・試掘調査	13
1 大坪沢遺跡	13
2 ハツ口遺跡	17
3 宗徳寺遺跡	20
4 明科遺跡群栄町遺跡	23
5 明科遺跡群県町遺跡	26
6 追堀遺跡	29
7 藤塚遺跡	32
8 明科遺跡群県町遺跡	36
9 潮遺跡群潮神明宮前遺跡	40
10 宮脇遺跡	43
第3章 工事立会	47
1 追堀遺跡	47
2 他谷遺跡	50
3 小瀬幅遺跡	53
4 小瀬幅遺跡	55
5 真光寺跡	58
6 南松原遺跡	60
引用・参考文献	63
調査報告書抄録	

## 挿図目次

第1図	発掘調査等位置図（北部）……………	2	第32図	県町遺跡試掘トレンチ配置図……………	37
第2図	発掘調査等位置図（南部）……………	4	第33図	県町遺跡試掘土層概念図……………	37
第3図	発掘調査等位置図（穂高駅周辺）…	6	第34図	県町遺跡試掘出土遺物……………	38
第4図	発掘調査等位置図（明科駅周辺）…	7	第35図	県町遺跡試掘出土遺物写真……………	38
第5図	大坪沢遺跡発掘位置図……………	13	第36図	潮神明宮前遺跡試掘位置図……………	40
第6図	大坪沢遺跡調査区配置図……………	14	第37図	潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図…	41
第7図	大坪沢遺跡調査詳細図……………	14	第38図	潮神明宮前遺跡試掘セクション図…	41
第8図	大坪沢遺跡調査出土土器……………	15	第39図	宮脇遺跡試掘位置図……………	43
第9図	大坪沢遺跡調査出土土器写真……………	15	第40図	宮脇遺跡試掘トレンチ配置 及び土層概念図……………	44
第10図	ハツ口遺跡試掘位置図……………	17	第41図	宮脇遺跡試掘セクション図……………	45
第11図	ハツ口遺跡試掘トレンチ配置図……………	18	第42図	追堀遺跡工事立会位置図……………	47
第12図	ハツ口遺跡試掘土層概念図……………	18	第43図	追堀遺跡工事立会土層概念図……………	48
第13図	宗徳寺遺跡試掘位置図……………	20	第44図	追堀遺跡工事立会出土土器……………	48
第14図	宗徳寺遺跡試掘トレンチ配置図……………	21	第45図	追堀遺跡工事立会出土土器写真……………	48
第15図	宗徳寺遺跡試掘土層概念図……………	21	第46図	他谷遺跡工事立会位置図……………	50
第16図	宗徳寺遺跡試掘出土土器……………	22	第47図	他谷遺跡工事立会土層概念図……………	51
第17図	栄町遺跡試掘位置図……………	23	第48図	他谷遺跡工事立会出土土器……………	51
第18図	栄町遺跡試掘トレンチ配置図……………	24	第49図	他谷遺跡工事立会出土土器写真……………	51
第19図	栄町遺跡試掘土層概念図……………	24	第50図	小瀬幅遺跡工事立会位置図……………	53
第20図	県町遺跡試掘位置図……………	26	第51図	小瀬幅遺跡工事立会土層概念図……………	54
第21図	県町遺跡試掘トレンチ配置図……………	27	第52図	小瀬幅遺跡工事立会出土土器……………	54
第22図	県町遺跡試掘土層概念図……………	27	第53図	小瀬幅遺跡工事立会位置図……………	55
第23図	追堀遺跡試掘位置図……………	29	第54図	小瀬幅遺跡工事立会土層概念図……………	56
第24図	追堀遺跡試掘トレンチ配置図……………	30	第55図	小瀬幅遺跡工事立会出土土器……………	56
第25図	追堀遺跡試掘土層概念図……………	30	第56図	真光寺跡工事立会位置図……………	58
第26図	藤塚遺跡試掘位置図……………	32	第57図	真光寺跡工事立会土層概念図……………	59
第27図	藤塚遺跡試掘トレンチ配置図……………	33	第58図	真光寺跡工事立会出土遺物……………	59
第28図	藤塚遺跡試掘土層概念図……………	33	第59図	南松原遺跡工事立会位置図……………	60
第29図	藤塚遺跡試掘出土土器……………	34	第60図	南松原遺跡工事立会土層概念図……………	61
第30図	藤塚遺跡試掘出土土器写真……………	34	第61図	南松原遺跡工事立会出土土器……………	61
第31図	県町遺跡試掘位置図……………	36			

## 挿表目次

第1表	発掘調査等一覧……………	8	第6表	追堀遺跡工事立会出土土器観察表…	49
第2表	大坪沢遺跡調査出土土器観察表…	15	第7表	他谷遺跡工事立会出土土器観察表…	52
第3表	宗徳寺遺跡試掘出土土器観察表…	22	第8表	小瀬幅遺跡工事立会出土土器観察表…	54
第4表	藤塚遺跡試掘出土土器観察表…	34	第9表	小瀬幅遺跡工事立会出土土器観察表…	57
第5表	泉町遺跡試掘出土土器観察表…	39	第10表	南松原遺跡工事立会出土土器観察表…	61

## 第1章 平成31・令和元年度埋蔵文化財保護事業

### 1 埋蔵文化財保護事業の概要

#### (1) 事務局の体制

平成31・令和元年度の安曇野市における埋蔵文化財保護事業は、安曇野市教育委員会教育部文化課文化財保護係が担当した。体制は次のとおりである。

事務局 安曇野市教育委員会教育部 文化課

那須野雅好（文化課長、～令和元年度）

山下泰永（文化課長、令和2年度～／文化課課長補佐兼文化財保護係長、～令和元年度）

土屋和章、横山幸子、佐藤眞弓（以上、文化財保護係）

作業参加 田多井智恵、宮下智美、望月裕子（以上、平成31～令和2年度）、白居直之（令和2年度）

#### (2) 地理的環境と遺跡の立地

安曇野市は平成17年（2005）10月1日に豊科町、穂高町、三郷村、堀金村、明科町の5町村が合併して誕生した市で、長野県のほぼ中央部に位置し、北は大町市、松川村、池田町、生坂村、筑北村、南は松本市に隣接する。地形的には松本盆地の中ほどにあり、西は飛騨山脈、東は筑摩山地に囲まれる。松本盆地は、緑辺部から流れる複数の河川が運搬した堆積物が形成している。

安曇野市内に所在する遺跡は、現在398箇所が周知の埋蔵文化財包蔵地となっており、縄文時代早期から現代に至る。縄文時代の遺跡は、主として飛騨山脈山麓の扇状地扇頂付近及び犀川以東の河岸段丘上に多く立地しており、過去の調査から、縄文時代中期に隆盛を極めたことがわかる。弥生時代になると遺跡数は減少し、集落の立地も扇状地扇尖及び扇端へ移る。生産形態の変化が遺跡立地の変化に影響している可能性があり、この集落立地は基本的に現代まで踏襲されている。安曇野市では、前・中期の古墳は現在までに確認されておらず、後期の群集墳が飛騨山脈山麓や明科地域に分布する。奈良時代以降は、前時代までの立地を踏襲するように犀川以西の扇端と犀川以東の河岸段丘上に集落が営まれるなか、明科地域では明科遺跡群明科廃寺と呼ばれる古代寺院の存在が確認されている。また、豊科田沢の山間部一帯から隣接する松本市域にかけて須恵器窯群が築かれた。

#### (3) 平成31・令和元年度の概要

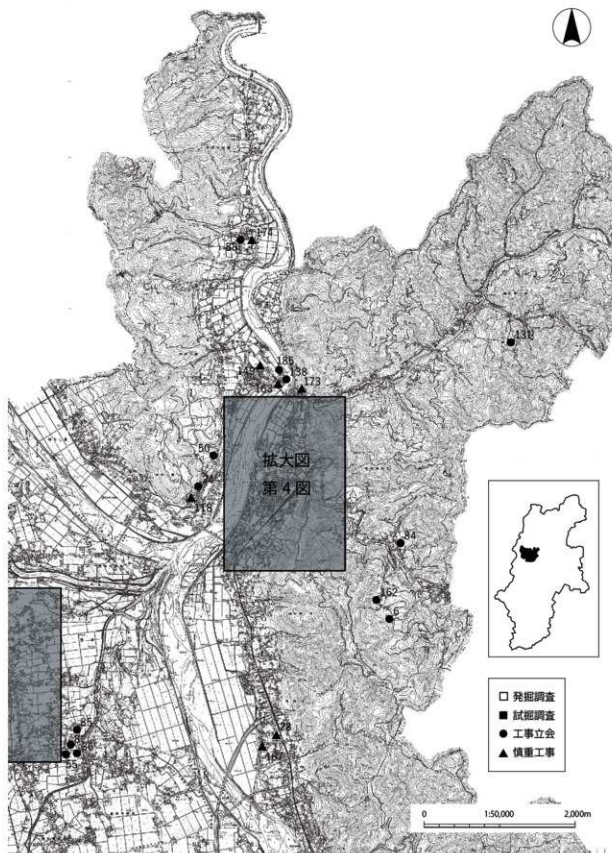
平成31・令和元年度の安曇野市内における発掘調査等の総数は全189件であった（第1表）。このうち安曇野市教育委員会が主体となって実施した発掘調査等は合計188件である。内訳は、発掘調査1件、試掘9件、工事立会98件、慎重工事80件となっている。それぞれの位置は、第1～4図に示す。小規模発掘調査・試掘調査の詳細は第2章に、工事立会の詳細は第3章に記載した。

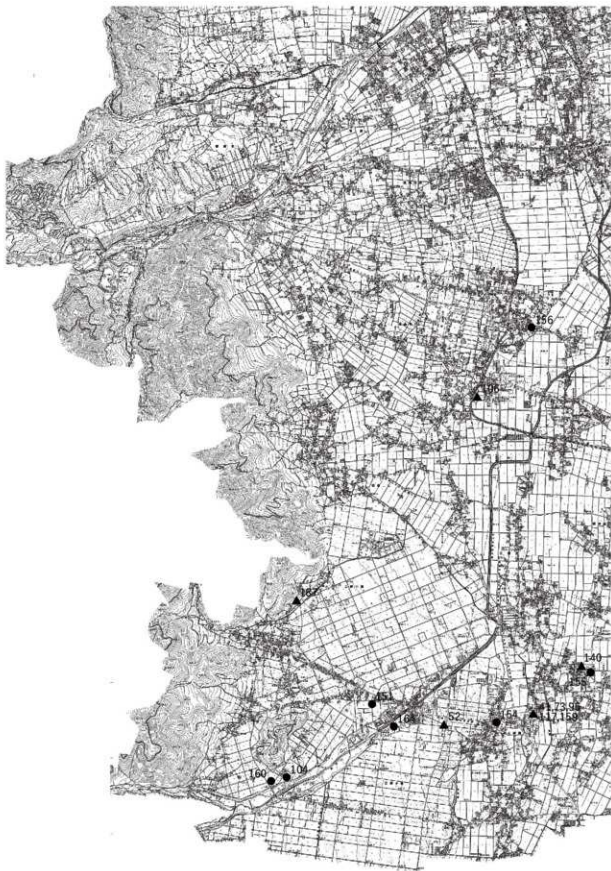
また、安曇野市教育委員会が調査主体となった埋蔵文化財保護事業の他に、國學院大學文学部考古学研究室が穂高古墳群F9号墳の学術発掘を実施している。



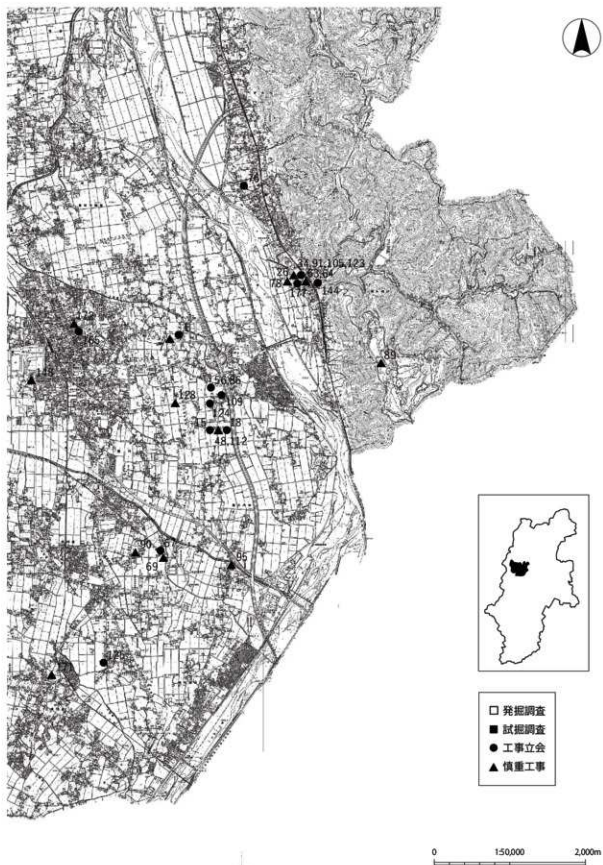


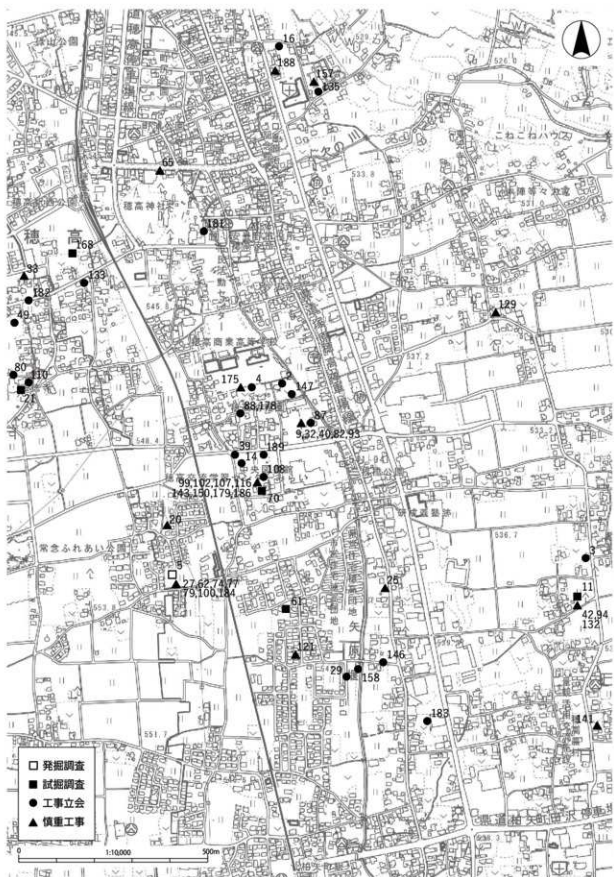
第1図 発掘調査等位置図 (北部)



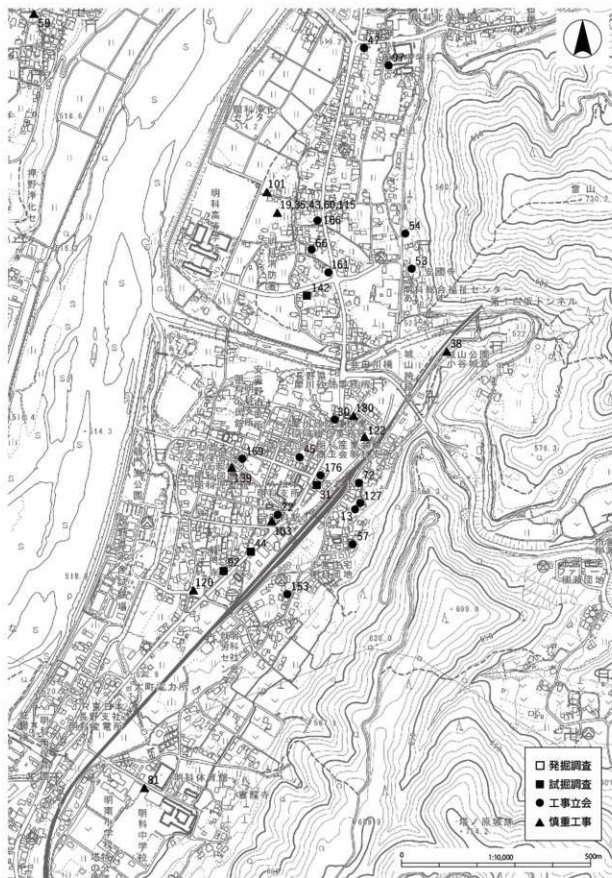


第2図 発掘調査等位置図(南部)





第3図 発掘調査等位置図（穂高駅周辺）



第4図 発掘調査等位置図(明科駅周辺)

第1表 発掘調査等一覧

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●1	工事立会	上手木戸遺跡	豊科南穂高115番7	個人住宅	20190401	20190401	市教委
●2	工事立会	藤塚遺跡	穂高6812番8外1筆	個人住宅	20190403	20190403	市教委
●3	工事立会	三枚橋遺跡	穂高1558番1の一部	個人住宅	20190404	20190404	市教委
●4	工事立会	藤塚遺跡	穂高6813番5付近	河川	20190411	20190411	市教委
□5	発掘調査	大坪沢遺跡	穂高柏原1711番2	宅地造成	20190402	20190416	市教委
●6	工事立会	清水古屋敷遺跡	明科中川手5930番外1筆	ガス・水道・電気等	20190417	20190417	市教委
▲7	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科南穂高111番23付近	道路	20190419	20190419	市教委
●8	工事立会	正島遺跡	穂高865番1	その他の建物	20190430	20190430	市教委
●9	工事立会	藤塚遺跡	穂高6806番4外1筆	個人住宅	20190507	20190507	市教委
●10	工事立会	山崎遺跡	穂高牧1735番	ガス・水道・電気等	20190507	20190507	市教委
■11	試掘	八ツ口遺跡	穂高1430番1外1筆	宅地造成	20190508	20190509	市教委
●12	工事立会	小岩塚下木戸遺跡	穂高有明3106番1	ガス・水道・電気等	20190509	20190509	市教委
●13	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手4059番1外2筆	個人住宅	20190513	20190513	市教委
●14	工事立会	藤塚遺跡	穂高6764番13他1筆	個人住宅	20190514	20190514	市教委
●15	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家3969番9外1筆	宅地造成	20190514	20190514	市教委
●16	工事立会	等々力町中上巾下遺跡	穂高4606番1外2筆	その他開発	20190514	20190514	市教委
●17	工事立会	堰下遺跡	穂高牧2308番1	その他の建物	20190515	20190515	市教委
●18	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2596番1外2筆	土砂採取	20190515	20190515	市教委
▲19	慎重工事	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番7	個人住宅	20190516	20190516	市教委
▲20	慎重工事	大坪沢遺跡	穂高7025番5	個人住宅	20190516	20190516	市教委
■21	試掘	宗徳寺遺跡	穂高7137番3外14筆	その他の建物	20190516	20190516	市教委
●22	工事立会	明科遺跡群県町遺跡	明科中川手3746番9	その他の建物	20190520	20190520	市教委
●23	工事立会	野辺沢遺跡	穂高有明7253番11	個人住宅	20190521	20190521	市教委
●24	工事立会	上野遺跡ほか	明科七貫6174番2先	ガス・水道・電気等	20190521	20190522	市教委
▲25	慎重工事	三枚橋遺跡	穂高柏原967番9	その他の建物	20190527	20190527	市教委
▲26	慎重工事	小瀬幅遺跡	豊科田沢4840番1外5筆	個人住宅	20190527	20190527	市教委
▲27	慎重工事	大坪沢遺跡	穂高柏原1711番2の内	個人住宅	20190527	20190527	市教委
▲28	慎重工事	先遺跡群中条遺跡	明科光616番3先外	道路	20190527	20190527	市教委
●29	工事立会	追廻遺跡	穂高柏原1583番3	ガス・水道・電気等	20190425	20190530	市教委
●30	工事立会	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4178番4外5筆	個人住宅	20190531	20190531	市教委
■31	試掘	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手3728番17	道路	20190604	20190604	市教委
▲32	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6806番5	個人住宅	20190606	20190606	市教委
▲33	慎重工事	宮脇遺跡	穂高10105番5外1筆	その他開発	20190607	20190607	市教委
●34	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4858番1	個人住宅	20190610	20190610	市教委
▲35	慎重工事	潮遺跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番3	個人住宅	20190613	20190613	市教委
●36	工事立会	中在地遺跡	穂高732番1	個人住宅	20190617	20190617	市教委
●37	工事立会	貝梅道下遺跡	穂高5330番1	ガス・水道・電気等	20190621	20190621	市教委
▲38	慎重工事	こや城	明科中川手4551番5	道路	20190625	20190625	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●39	工事立会	藤塚遺跡	穂高6780番9	個人住宅	20190626	20190626	市教委
▲40	慎重工事	藤塚遺跡	穂高6806番9	個人住宅	20190627	20190627	市教委
▲41	慎重工事	栗の木下遺跡	三郷温2176番4	個人住宅	20190628	20190628	市教委
▲42	慎重工事	ハツロ遺跡	穂高1430番1	個人住宅	20190702	20190702	市教委
▲43	慎重工事	潮道跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番2	個人住宅	20190702	20190702	市教委
■44	試掘	明科道跡群隈町遺跡	明科中川手3767番18	道路	20190703	20190703	市教委
●45	工事立会	明科道跡群栄町遺跡	明科中川手6812番37	ガス・水道・電気等	20190703	20190703	市教委
●46	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明3092番3外	その他開発	20190709	20190709	市教委
●47	工事立会	潮道跡群塩田若宮遺跡	明科東川手859番1外2筆	個人住宅	20190513	20190710	市教委
▲48	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3969番14	個人住宅	20190711	20190711	市教委
●49	工事立会	宮脇遺跡	穂高6484番4外3筆	個人住宅	20190712	20190712	市教委
●50	工事立会	上野遺跡	明科七貫6289番1	その他の建物	20190708	20190716	市教委
●51	工事立会	神谷遺跡	穂高牧920番	個人住宅	20190716	20190716	市教委
▲52	慎重工事	若宮遺跡	三郷温4690番2外	道路	20190718	20190718	市教委
●53	工事立会	潮道跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手916番2	ガス・水道・電気等	20190719	20190719	市教委
●54	工事立会	潮道跡群新屋敷遺跡	明科東川手801番1外2筆	ガス・水道・電気等	20190719	20190719	市教委
●55	工事立会	中在地遺跡	穂高627番1先	ガス・水道・電気等	20190718	20190722	市教委
●56	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2530番1外2筆	個人住宅	20190725	20190725	市教委
●57	工事立会	明科道跡群上郷遺跡	明科中川手3655番5	個人住宅	20190726	20190726	市教委
●58	工事立会	他谷遺跡	穂高牧850番	ガス・水道・電気等	20190726	20190726	市教委
▲59	慎重工事	塩川原遺跡	明科七貫8047番1付近	道路	20190726	20190726	市教委
▲60	慎重工事	潮道跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番5	個人住宅	20190726	20190726	市教委
■61	試掘	追堀遺跡	穂高柏原1672番2	宅地造成	20190719	20190805	市教委
▲62	慎重工事	大坪沢遺跡	穂高柏原1711番26	個人住宅	20190808	20190808	市教委
▲63	慎重工事	小瀬幅遺跡	豊科田沢4858番1	ガス・水道・電気等	20190808	20190808	市教委
▲64	慎重工事	小瀬幅遺跡	豊科田沢4855番1	ガス・水道・電気等	20190808	20190808	市教委
▲65	慎重工事	穂高神社境内遺跡	穂高5971番3	その他の建物	20190808	20190808	市教委
●66	工事立会	潮道跡群新屋敷遺跡	明科東川手459番	個人住宅	20190808	20190809	市教委
●67	工事立会	日光寺跡	豊科1355番1	ガス・水道・電気等	20190809	20190809	市教委
□68	発掘調査	穂高古墳群F9号墳	穂高柏原3653番	学術研究	20190805	20190815	國學院大學
▲69	慎重工事	日光寺跡	豊科1355番1	個人住宅	20190819	20190819	市教委
■70	試掘	藤塚遺跡	穂高6761番2外3筆	宅地造成	20190711	20190821	市教委
●71	工事立会	小岩嶽下木戸遺跡	穂高有明3048番1	個人住宅	20190827	20190827	市教委
●72	工事立会	明科道跡群上郷遺跡	明科中川手4021番1外1筆	ガス・水道・電気等	20190828	20190828	市教委
▲73	慎重工事	栗の木下遺跡	三郷温2176番3	個人住宅	20190828	20190828	市教委
▲74	慎重工事	大坪沢遺跡	穂高柏原1711番22	個人住宅	20190828	20190828	市教委
●75	工事立会	宗徳寺遺跡	穂高7145番3	個人住宅	20190903	20190903	市教委
●76	工事立会	光道跡	豊科光1432番1先	ガス・水道・電気等	20190819	20190903	市教委



## 第1章 平成31・令和元年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲77	慎重工事	大坪沢遺跡	徳高柏原1711番27	個人住宅	20190903	20190903	市教委
▲78	慎重工事	小瀬幅遺跡	豊科田沢4812番 6	その他開発	20190903	20190903	市教委
▲79	慎重工事	大坪沢遺跡	徳高柏原1711番22	ガス・水道・電気等	20190903	20190903	市教委
●80	工事立会	宗徳寺遺跡	徳高6507番 2	その他開発	20190905	20190905	市教委
▲81	慎重工事	上手屋敷遺跡	明科中川手2672番 2	道路	20190905	20190905	市教委
▲82	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6806番 6	個人住宅	20190906	20190906	市教委
●83	工事立会	中村殿田遺跡	明科南陸郷890番 1	その他の建物	20190917	20190917	市教委
●84	工事立会	中沢古屋敷	明科中川手6465番 3 外 1 筆	個人住宅	20190920	20190920	市教委
●85	工事立会	正島遺跡	徳高1090番 1 外 2 筆	個人住宅	20190920	20190920	市教委
●86	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2530番 1	ガス・水道・電気等	20190920	20190920	市教委
●87	工事立会	藤塚遺跡	徳高6806番12付近	ガス・水道・電気等	20190920	20190920	市教委
●88	工事立会	藤塚遺跡	徳高6792番 1	個人住宅	20190927	20190927	市教委
▲89	慎重工事	上ノ山窓跡群ほか	豊科田沢18141番473外	その他開発	20190930	20190930	市教委
▲90	慎重工事	上手堀屋敷跡	豊科777番 9 外 2 筆	個人住宅	20190930	20190930	市教委
●91	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4858番 8	個人住宅	20191002	20191002	市教委
■92	試掘	明科遺跡群馬県道跡	明科中川手3521番 9	道路	20191001	20191002	市教委
▲93	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6806番13	個人住宅	20191008	20191008	市教委
▲94	慎重工事	八ツ口遺跡	徳高1430番 2	個人住宅	20191008	20191008	市教委
▲95	慎重工事	宮前遺跡	豊科高家768番13先	道路	20191009	20191009	市教委
▲96	慎重工事	栗の木下遺跡	三郷温2176番 6 外 1 筆	個人住宅	20191009	20191009	市教委
●97	工事立会	瀬遺跡群馬県田岩宮遺跡	明科東川手823番	その他の建物	20191011	20191011	市教委
●98	工事立会	寺島畑遺跡	徳高牧1501番 4 外 3 筆	その他開発	20191015	20191015	市教委
▲99	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6762番16	個人住宅	20191016	20191016	市教委
▲100	慎重工事	大坪沢遺跡	徳高柏原1711番24	個人住宅	20191021	20191021	市教委
▲101	慎重工事	瀬遺跡群馬県道跡	明科東川手340番 2 先	道路	20191021	20191021	市教委
▲102	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6762番 7	個人住宅	20191021	20191021	市教委
▲103	慎重工事	明科遺跡群馬県道跡	明科中川手3746番 9	その他開発	20191021	20191021	市教委
●104	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉1929番の一部	その他の建物	20191023	20191023	市教委
●105	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4854番 1	個人住宅	20191028	20191028	市教委
▲106	慎重工事	堀金小学校付近遺跡	堀金島川2844番 8	個人住宅	20191029	20191029	市教委
▲107	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6762番 8 外 1 筆	個人住宅	20191029	20191029	市教委
●108	工事立会	藤塚遺跡	徳高6763番 1	ガス・水道・電気等	20191030	20191030	市教委
●109	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家2510番 1 先	道路	20191031	20191031	市教委
●110	工事立会	宗徳寺遺跡	徳高7137番 4 外14筆	その他の建物	20191011	20191106	市教委
●111	工事立会	堰下遺跡	徳高牧2288番 1	個人住宅	20191106	20191106	市教委
▲112	慎重工事	上手木戸遺跡	豊科高家3969番17外 1 筆	個人住宅	20191107	20191107	市教委
▲113	慎重工事	青原寺大門遺跡	徳高有明3466番 1	その他開発	20191107	20191107	市教委
●114	工事立会	新林遺跡	徳高牧1870番 6 先外	道路	20191115	20191115	市教委

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
▲115	慎重工事	潮道跡群古屋敷遺跡	明科東川手328番9	個人住宅	20191118	20191118	市教委
▲116	慎重工事	藤塚遺跡	總高6761番2外1筆	個人住宅	20191118	20191118	市教委
▲117	慎重工事	栗の木下遺跡	三郷温2176番5	個人住宅	20191118	20191118	市教委
▲118	慎重工事	やしき遺跡	明科七貫6226番先	道路	20191118	20191118	市教委
●119	工事立会	寺高畑遺跡	總高有明7910番2先	道路	20191118	20191118	市教委
▲120	慎重工事	明科遺跡群泉町遺跡	明科中川手3514番1先	道路	20191120	20191120	市教委
▲121	慎重工事	追畑遺跡	總高柏原1649番9	その他開発	20191120	20191120	市教委
▲122	慎重工事	明科遺跡群栄町遺跡	明科中川手4161番8	個人住宅	20191120	20191120	市教委
●123	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4761番1先外	道路	20191018	20191120	市教委
●124	工事立会	上手木戸遺跡	豊科高家4011番1	その他の建物	20191121	20191121	市教委
●125	工事立会	真光寺跡	豊科高家6127番4	個人住宅	20191121	20191121	市教委
●126	工事立会	小岩蔵下木戸遺跡	總高有明3056番1外	ガス・水道・電気等	20191119	20191121	市教委
●127	工事立会	明科遺跡群上郷遺跡	明科中川手4059番2外1筆	個人住宅	20191125	20191125	市教委
▲128	慎重工事	荒井遺跡ほか	豊科3728番5先外	ガス・水道・電気等	20191125	20191125	市教委
▲129	慎重工事	北才の神遺跡	總高2831番1	個人住宅	20191127	20191127	市教委
●130	工事立会	芝宮南遺跡	總高7217番4外	道路	20190912	20191127	市教委
●131	工事立会	庄部沢遺跡	明科東川手4946番先	ガス・水道・電気等	20191128	20191128	市教委
▲132	慎重工事	ハツ口遺跡	總高1430番1	ガス・水道・電気等	20191128	20191128	市教委
●133	工事立会	宮脇遺跡	總高6487番3	ガス・水道・電気等	20191128	20191128	市教委
▲134	工事立会	青原寺大門遺跡	總高有明3613番9	個人住宅	20191128	20191128	市教委
●135	工事立会	等々力町中上市下遺跡	總高4619番4	ガス・水道・電気等	20191130	20191130	市教委
●136	工事立会	ショウノヒナタ遺跡	總高牧2195番11	その他の建物	20191203	20191203	市教委
▲137	慎重工事	芝宮南遺跡	總高72117番1外13筆	その他の建物	20191203	20191203	市教委
●138	工事立会	伊勢宮遺跡	明科七貫8939番1外	道路	20191205	20191205	市教委
▲139	慎重工事	明科遺跡群本町遺跡	明科中川手3951番3	個人住宅	20191209	20191209	市教委
▲140	慎重工事	三柱神社東遺跡	三郷明盛4823番3	その他開発	20191211	20191211	市教委
▲141	慎重工事	矢原宮地遺跡	總高1052番1	個人住宅	20191211	20191211	市教委
■142	試掘	潮道跡群潮神明宮前遺跡	明科東川手509番2外2筆	その他開発	20191211	20191211	市教委
▲143	慎重工事	藤塚遺跡	總高6761番8外1筆	個人住宅	20191212	20191212	市教委
●144	工事立会	円満寺跡	豊科田沢4917番1	その他の建物	20191120	20191212	市教委
▲145	慎重工事	等々力町中上市下遺跡	總高4385番5先	道路	20191217	20191217	市教委
●146	工事立会	ハツ口遺跡	總高柏原954番1外1筆	ガス・水道・電気等	20191218	20191218	市教委
●147	工事立会	藤塚遺跡	總高6812番1	個人住宅	20191220	20191220	市教委
▲148	慎重工事	柳原遺跡	豊科2135番3	ガス・水道・電気等	20191224	20191224	市教委
▲149	慎重工事	荒井遺跡	明科七貫8729番1外1筆	個人住宅	20191224	20191224	市教委
▲150	慎重工事	藤塚遺跡	總高6762番10	個人住宅	20191224	20191224	市教委
●151	工事立会	東小倉遺跡	三郷小倉6100番先	その他開発	20200110	20200110	市教委
●152	工事立会	等々力町中上市下遺跡	總高4570番2外	道路	20200114	20200114	市教委

## 第1章 平成31・令和元年度埋蔵文化財保護事業

No.	調査	遺跡	所在地	工事目的等	調査日_自	調査日_至	調査主体
●153	工事立会	明料遺跡群上郷遺跡	明料中川手3579番1外1筆	その他の建物	20200114	20200114	市教委
●154	工事立会	上総屋敷遺跡	三郷温4326番4先	ガス・水道・電気等	20200115	20200115	市教委
●155	工事立会	三柱神社東遺跡	三郷明盛4869番外1筆	道路	20200116	20200116	市教委
●156	工事立会	下郷道南遺跡	堀島烏川4878番1	個人住宅	20200116	20200116	市教委
▲157	慎重工事	等々力町中上巾下遺跡	徳高4620番1	工場	20200117	20200117	市教委
●158	工事立会	追福遺跡	徳高柏原1586番3付近	ガス・水道・電気等	20200121	20200121	市教委
▲159	慎重工事	栗の木下遺跡	三郷温2176番4	個人住宅	20200122	20200122	市教委
●160	工事立会	南松原遺跡	三郷小倉1917番1	その他開発	20200124	20200124	市教委
●161	工事立会	瀬遺跡群新屋遺跡	明料東川手494番3外2筆	その他開発	20200127	20200127	市教委
●162	工事立会	光久寺	明料中川手5773番	ガス・水道・電気等	20200129	20200129	市教委
▲163	慎重工事	伊勢宮遺跡	明料七貫8933番1	ガス・水道・電気等	20200129	20200129	市教委
●164	工事立会	黒沢川右岸遺跡	三郷小倉4138番1	その他開発	20200129	20200129	市教委
●165	工事立会	法蔵寺館跡ほか	豊科5719番外	その他の建物	20200205	20200205	市教委
●166	工事立会	瀬遺跡群新屋遺跡	明料東川手441番1	ガス・水道・電気等	20200206	20200206	市教委
▲167	慎重工事	光遺跡群下里館	明料光840番3	道路	20200206	20200206	市教委
■168	試掘	宮脇遺跡	徳高6571番外	その他の建物	20200205	20200207	市教委
●169	工事立会	明料遺跡群栄町遺跡	明料中川手6814番1	その他開発	20200207	20200207	市教委
●170	工事立会	青原寺大門遺跡	徳高有明1859番4	その他開発	20200210	20200210	市教委
▲171	慎重工事	白山神社横遺跡	三郷明盛1758番9先外	道路	20200220	20200220	市教委
▲172	慎重工事	法蔵寺館跡	豊科5731番30先外	道路	20200220	20200220	市教委
▲173	慎重工事	木戸橋ノ爪遺跡ほか	明料東川手13344番1外	道路	20200220	20200220	市教委
▲174	慎重工事	中村殿田遺跡	明料南陸郷602番先	道路	20200220	20200220	市教委
▲175	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6839番1付近	河川	20200221	20200221	市教委
●176	工事立会	明料遺跡群栄町遺跡	明料中川手3733番7外	道路	20200225	20200225	市教委
●177	工事立会	小瀬幅遺跡	豊科田沢4830番1	その他開発	20200225	20200225	市教委
●178	工事立会	藤塚遺跡	徳高6792番1	ガス・水道・電気等	20200227	20200227	市教委
▲179	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6762番15	個人住宅	20200228	20200228	市教委
▲180	慎重工事	明料遺跡群栄町遺跡	明料中川手4161番21先	道路	20200228	20200228	市教委
●181	工事立会	徳高神社境内遺跡	徳高6644番外9筆	その他の建物	20200304	20200304	市教委
●182	工事立会	宮脇遺跡	徳高6472番1外	道路	20200309	20200309	市教委
●183	工事立会	矢原権現池遺跡	徳高1361番2付近	河川	20200309	20200309	市教委
▲184	慎重工事	大坪沢遺跡	徳高柏原1711番23	個人住宅	20200310	20200310	市教委
●185	工事立会	伊勢宮遺跡	明料七貫8995番3	ガス・水道・電気等	20200311	20200311	市教委
▲186	慎重工事	藤塚遺跡	徳高6761番9外1筆	個人住宅	20200318	20200318	市教委
▲187	慎重工事	一本松遺跡	三郷小倉506番6	個人住宅	20200319	20200319	市教委
▲188	慎重工事	等々力町中上巾下遺跡	徳高4631番1	個人住宅	20200325	20200325	市教委
●189	工事立会	藤塚遺跡	徳高6764番19	個人住宅兼工場又は店舗	20200331	20200331	市教委

## 第2章 小規模発掘調査・試掘調査

### 1 大坪沢遺跡（第1表□5）



第5図 大坪沢遺跡発掘位置図

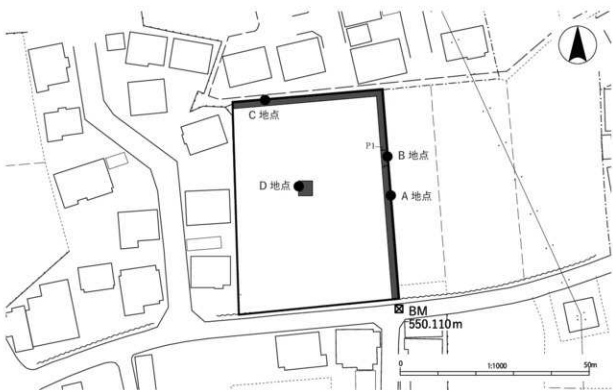
所在地	安曇野市穂高柏原1711番2	調査面積	154㎡
調査期間	平成31年(2019)4月2日～平成31年(2019)4月16日	調査契機	宅地造成
調査参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

#### (1) 概要

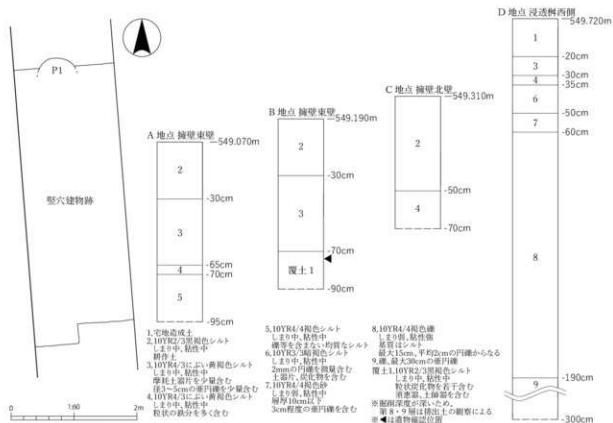
大坪沢遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに発掘調査を実施した記録はない。

今回の調査では、宅地造成にかかる擁壁及び浸透柵設置箇所について記録保存を実施した。調査の結果、東辺擁壁設置箇所で堅穴建物跡と考えられる遺構を検出した。この遺構覆土からは、須恵器・土師器が少量出土した。浸透柵設置箇所では、遺構・遺物は確認していない。

上記の結果から、本件施工地内に埋蔵文化財が残存していることを確認し、工事掘削の影響を受けない範囲は現状保存とした。このため、遺構の記録は平面検出及び掘削断面での土層観察のみである。また調査後、全面的に50cmの盛土施工がなされたため、遺構深度は現地表から約120cmとなった。



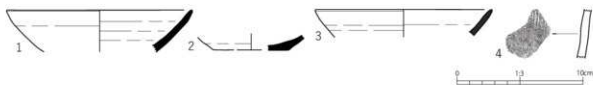
第6図 大坪沢遺跡調査区配置図



第7図 大坪沢遺跡調査詳細図

## (2) 遺物

今回の調査で出土した土器のうち、4点を資料化した。1は、須恵器坏である。口縁部～体部の形態から、無台になると考えられる。2は、須恵器坏の体部～底部破片である。底部の残存率は10分の1程度であるが、体部の底部付近に一部ケズリが見られる。3は、明橙褐色の須恵器坏であるため軟質須恵器とした。残存率は、口縁部で10分の1程度である。4は、土師器甕の体部破片で、外面のハケは縦方向に施される。焼成は良好だが、器面が摩耗している。



第8図 大坪沢遺跡調査出土土器



第9図 大坪沢遺跡調査出土土器写真

第2表 大坪沢遺跡調査出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
									外面	内面	底部
1	B地点	覆土1	須恵器	坏	口縁部～ 体部	14.8	復 不明	3.3	残 ロクロナデ	ロクロナデ	不明
2	B地点	覆土1	須恵器	坏	体部～ 底部	不明	6.0	復 1.2	残 ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラ削 りか
3	B地点	覆土1	軟質 須恵器	坏	口縁部～ 体部	14.0	復 不明	2.1	残 ロクロナデ	ロクロナデ	不明
4	B地点	覆土1	土師器	甕	体部	不明	不明	3.9	残 ハケメ	ナデ	不明



1 A地点土層（東壁）



2 南北トレンチ（南から）



3 B地点土層（東壁）



4 遺構検出状況（南から）（平面形白線を描画）



5 C地点土層（北壁）



6 東西トレンチ（東から）



7 D地点土層（西壁）



8 出土土器

## 2 やつくり 八ツ口遺跡 (第1表■11)



第10図 八ツ口遺跡試掘位置図

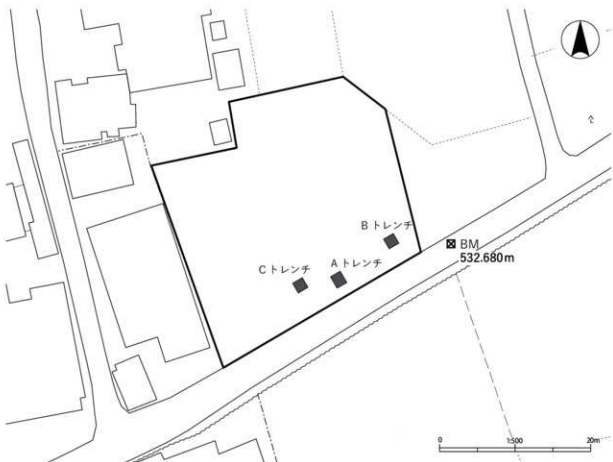
所在地	安曇野市穂高1430番1外1筆	調査面積	6㎡
調査期間	令和元年(2019)5月8日～令和元年(2019)5月9日	調査契機	宅地造成
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

### (1) 概要

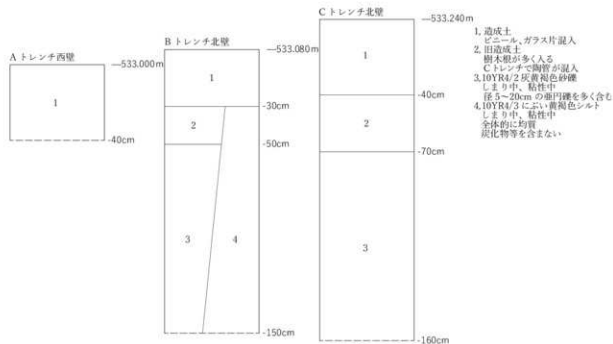
八ツ口遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する奈良時代～中世の集落跡である。

今回は、宅地造成に際し浸透樹設置箇所です掘を実施した。調査では浸透樹設置予定箇所にA～Cトレンチを設定し、遺構・遺物の検出を試みた。調査地は、従前から宅地であったため表土及び旧造成土にはビニール・ガラス等が多量に混入しており、庭木等の樹木根も多かった。旧宅地造成土以深では、砂礫の堆積を主体とするが、部分的に均質なシルトも確認した。調査の結果、いずれの地点でも中世以前の遺構・遺物は確認できず、浸透樹設置箇所での本調査の必要はないと判断した。なお、この宅地造成において浸透樹設置以外で埋蔵文化財に影響を与える掘削はない。





第11図 ハツ口遺跡試掘トレンチ配置図



第12図 ハツ口遺跡試掘土層概念図



1 調査前（南東から）



2 Aトレンチ完掘状況（東から）



3 Aトレンチ西壁



4 Bトレンチ完掘状況（西から）



5 Bトレンチ北壁



6 Cトレンチ完掘状況（西から）

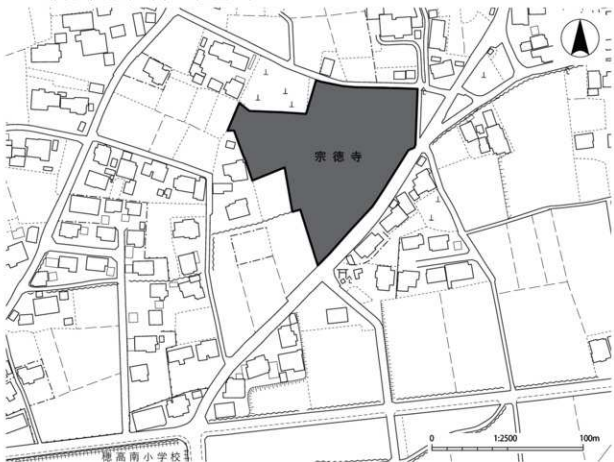


7 Cトレンチ西壁



8 Cトレンチ北壁

### 3 宗徳寺遺跡（第1表■21）



第13図 宗徳寺遺跡試掘位置図

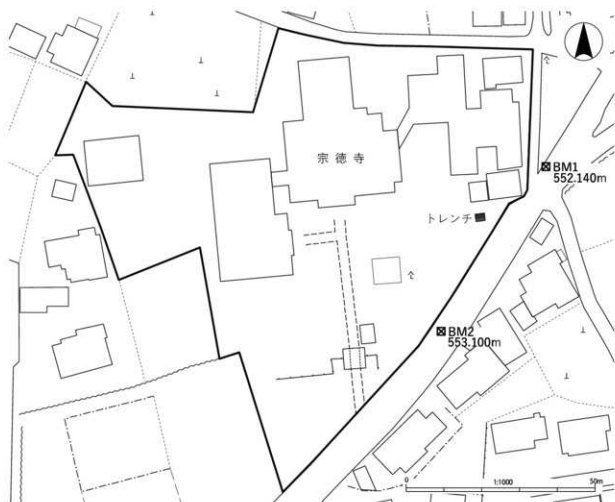
所在地	安曇野市穂高7137番3外14筆	調査面積	5㎡
調査期間	令和元年（2019）5月16日	調査契機	その他の建物（庫裡）
調査参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

#### (1) 概要

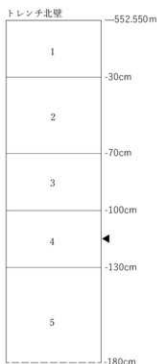
宗徳寺遺跡は、烏川扇状地扇尖に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡で本格的な発掘調査を実施した記録はないが、平成20年度に宗徳寺鐘樓付近に浸透施設を設置する際の工事立会で、深度150cm付近に遺構・遺物を確認した。

今回は、庫裡の建設計画を受け、計画地南側の既存建物を避けた箇所において試掘調査を実施した。調査の結果、地表下約70cmまでは近現代の攪乱で、深度約100～130cmの暗褐色シルト層中に、微量の炭化物と、摩耗した土器片を確認した。

上記の結果から、計画地付近に遺構が残存している可能性があり、今後の土木工事で深度70cm以上に掘削が及ぶ場合は埋蔵文化財へ影響を与える可能性があるため、注意が必要である。



第14図 宗徳寺遺跡試掘トレンチ配置図



第15図 宗徳寺遺跡試掘土層概念図

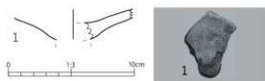
1. 造成土
2. 旧造成土  
ビニール片を含む
3. 10YR4/3 に近い黄褐色砂質シルト  
しまり弱、粘性弱  
最下部に酸化鉄が濃集し、最大で 10cm 程度の円礫を少量含む
4. 10YR3/4 暗褐色シルト  
しまり中、粘性中  
最大で 3cm 程度の円礫を少量含む  
炭化物、厚粒した土器片を含む  
上部に酸化鉄が濃集するが、西側へ連続しない
5. 10YR4/3 に近い黄褐色礫  
しまり弱、粘性弱  
基質はシルトで、礫支持  
最大径20cm、平均径1cmの円礫からなる

※◀は遺物確認位置

(2) 遺物

今回の調査では土器小破片が10点ほど出土し、このうち1点を資料化した。これ以外は小破片で、摩耗が激しく資料化していない。いずれも、胎土に長石・石英を多量に含む。

1は、土師器高坏の坏・脚部の接合部である。器面の摩耗が激しくミガキは確認できていない。残存率は、坏部下半8分の1程度で、器厚は8mmである。古墳時代後期の器形を推定できる。



第16図 宗徳寺遺跡試掘出土土器

第3表 宗徳寺遺跡試掘出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴			
									外面	内面	底部	
1	トレンチ	4	土師器	高坏	体部	不明	不明	2.6	残	ナデ	ナデ	不明



1 調査前（西から）



2 完掘状況（東から）



3 トレンチ北壁



4 出土土器

#### 4 明科遺跡群 栄町遺跡 (第1表■31)



第17図 栄町遺跡試掘位置図

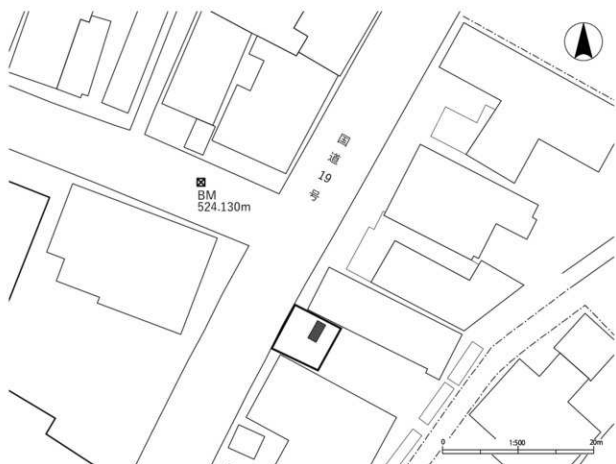
所在地	安曇野市明科中川手3728番17	調査面積	3㎡
調査期間	令和元年(2019)6月4日	調査契機	道路
調査参加者	横山幸子、田多井智恵		

##### (1) 概要

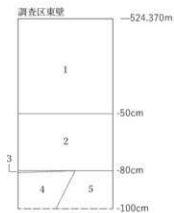
明科遺跡群栄町遺跡(以下、「栄町遺跡」とする。)は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに安曇野市役所明科支所周辺で4次の発掘調査を実施しており、古墳時代後期の集落跡を確認している。

今回は、国道拡幅事業予定箇所を試掘調査を実施した。調査の結果、深度約50cmまでレンガやビニールパイプを含む現代の造成土であり、これより下位には粘土及びシルトが堆積していた。深度80cm以深では、シルトを急角度で削り込む砂質シルトが確認できた。削り込みはトレンチ北側の調査範囲外へ連続したが、トレンチ西壁では砂質シルト層からの湧水により土層を確認できなかったため、削り込みが人為的なものであるかは不明である。遺物は出土しなかった。

上記の結果から、今回の調査地に明確な埋蔵文化財は存在していないと判断できる。



第18図 栄可遺跡試掘トレンチ配置図



第19図 栄可遺跡試掘土層概念図

1. 造成土  
レンガ、ビニールパイプ等を含む
2. 10YR3/1 黒褐色粘土  
しまり強、粘性強  
微細な炭化物を含む
3. 厚さ1cm以下の薄い層  
しまり弱、粘性中  
縦大径1cm程度の円礫からなる
4. 10YR4/1 黄灰色砂質シルト  
しまり強、粘性中  
全体的に均質、透水路
5. 10YR5/1 褐灰色シルト  
しまり強、粘性強  
3cm程度の10YR5/6黄褐色粘土のブロックを含む



1 国道19号線（調査地から南）



2 国道19号線（調査地から北）



3 調査前（東から）



4 調査前（西から）



5 完掘状況（東から）



6 完掘状況（南東から）



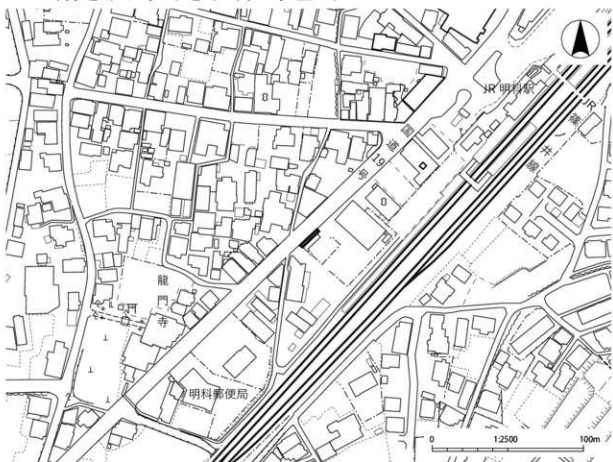
7 トレンチ東壁



8 埋戻し後（北西から）



## 5 明科遺跡群 県町遺跡 (第1表■44)



第20図 県町遺跡試掘位置図

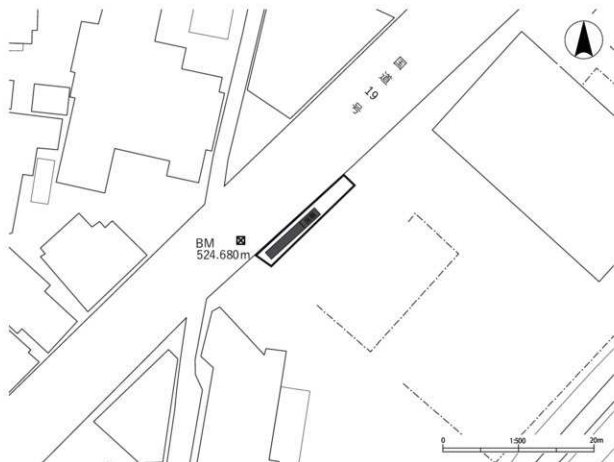
所在地	安曇野市明科中川手3767番18	調査面積	10㎡
調査期間	令和元年(2019)7月3日	調査契機	道路
調査参加者	横山幸子、田多井智恵		

### (1) 概要

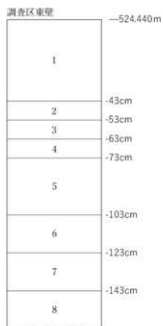
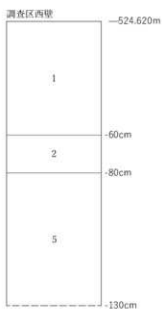
明科遺跡群県町遺跡(以下、「県町遺跡」とする。)は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに本発掘調査を実施した記録はない。

今回は、国道拡幅事業予定箇所で試掘調査を実施した。調査地は、国道19号を挟んで7世紀末に創建されたとされる明科遺跡群明科廃寺(以下、「明科廃寺」とする。)の東側に位置する。調査の結果、地表から約50～80cmの深さまではレンガやビニールを含む造成土であった。造成土直下の黒褐色シルト(第3層)の下位に、明科廃寺の基本層序第Ⅲa～c層(安曇野市教委2017)に相当すると考えられる第4～6層の粘土層が存在した。第4～6層は、土質はほぼ同じであるが、含まれる酸化鉄や粘土粒の量によって区別できる。第6層下位は砂及び礫層であった。第5層は微量の炭化物を含んでいたが、遺構・遺物は確認できなかった。

上記の結果から、今回の調査地に明確な埋蔵文化財は存在していないと判断した。



第21図 県可遺跡試掘トレンチ配置図



1. 造成土、ビニール、レンガ混入
2. 旧造成土、最大径5cm程度の礫が混じる
3. 10YR2/2 黒褐色シルト  
しまり中、粘性強  
最大3cm程度の酸化鉄ブロックを含む
4. 10YR4/1 褐灰色粘土  
しまり中、粘性強  
最大径3cm程度の酸化鉄ブロックを含む  
明料唐寺基本層序田a層に相当
5. 10YR4/1 褐灰色粘土  
しまり中、粘性強  
粒状に10YR6/6 明黄褐色粘土粒を含む  
酸化鉄を含み、炭化物を微量含む  
明料唐寺基本層序田b層に相当
6. 10YR4/1 褐灰色粘土  
しまり中、粘性強  
第5層に比べて粘土粒、酸化鉄が少ない  
明料唐寺基本層序田c層に相当
7. N4/0 灰色細粒砂  
しまり弱、粘性弱  
酸化鉄を含む
8. 礫  
しまり弱、粘性弱  
最大径10cm、平均径3cmの円礫からなる  
基質は細粒砂で、基質支持

第22図 県可遺跡試掘土層概念図



1 国道19号（調査地から北）



2 調査地近景（東から）



3 調査前（北東から）



4 調査前（南東から）



5 完掘状況（南から）



6 トレンチ西壁



7 トレンチ東壁



8 埋戻し後（南から）

## 6 おっぼり 追堀遺跡 (第1表■61)



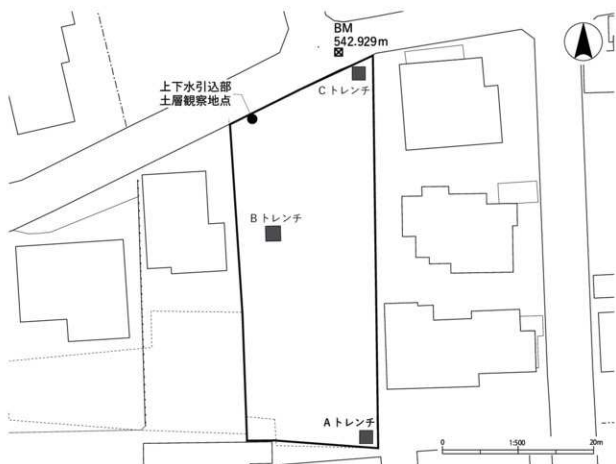
第23図 追堀遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市穂高柏原1672番2	調査面積	12㎡
調査期間	令和元年(2019)7月19日～令和元年(2019)8月5日	調査契機	宅地造成
調査参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

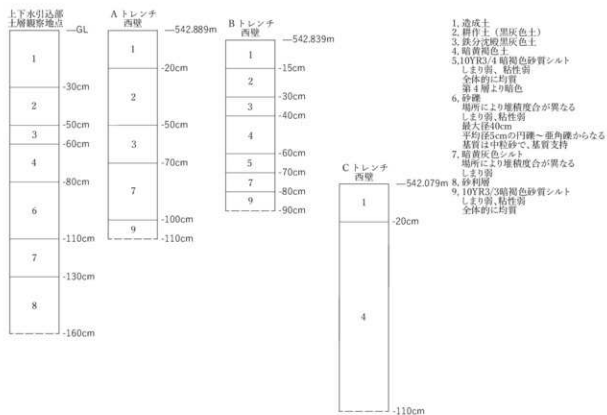
### (1) 概要

追堀遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成29年度に第1次発掘調査を実施しているほか、複数回の試掘・工事立会で当該期の遺物の出土を確認している。

今回は宅地造成のうち浸透樹設置箇所について、試掘調査を実施した。調査では、上下水道引込部で土層を確認した後、浸透樹設置予定箇所A～Cトレンチを設定し、遺構・遺物の検出を試みた。この結果、いずれの地点でも、遺構及び遺物は確認しなかった。したがって、上下水道引込部及び浸透樹設置箇所での本調査の必要はないと判断した。



第24図 追掘遺跡試掘トレンチ配置図



第25図 追掘遺跡試掘土層概念図



1 上下水道引き込み部（西から）



2 上下水道引き込み部東壁



3 Aトレンチ完掘（南東から）



4 Aトレンチ西壁



5 Bトレンチ完掘（東から）



6 Bトレンチ西壁

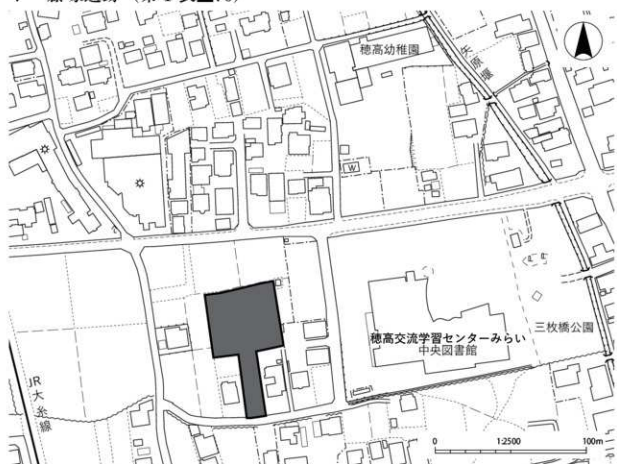


7 Cトレンチ完掘（南から）



8 Cトレンチ西壁

7 藤塚遺跡 (第1表■70)



第26図 藤塚遺跡試掘位置図

所在地	安曇野市徳高6761番2外3筆	調査面積	12㎡
調査期間	令和元年(2019)7月11日～令和元年(2019)8月21日	調査契機	宅地造成
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵		

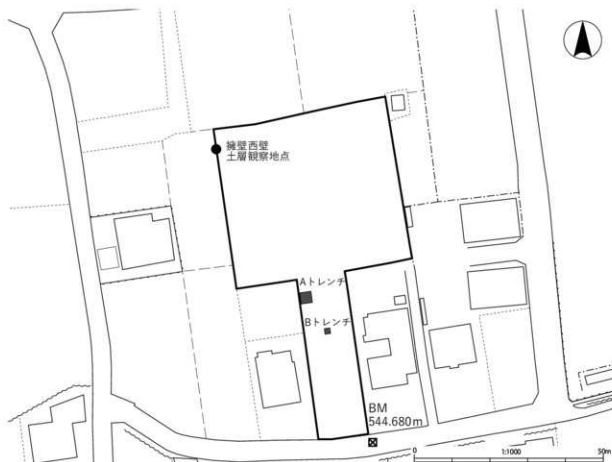
(1) 概要

藤塚遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに2次の発掘調査を実施しており、古墳時代及び奈良・平安時代の集落跡を確認している(安曇野市教委2009)。

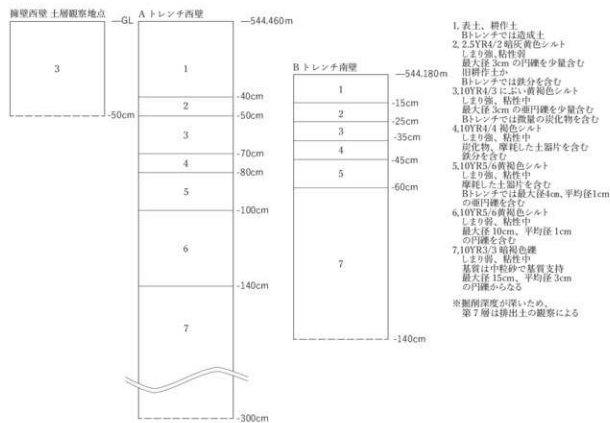
今回は、宅地造成に際し浸透柵設置箇所2箇所において本調査の必要性を判断するための試掘調査を実施した。調査では、令和元年(2019)7月11日に擁壁西壁で土層観察、7月18日にAトレンチ、8月21日にBトレンチの試掘を実施した。

調査の結果、A・Bトレンチの第5層において、微細な土器片を確認した。また、排出土から少量の須恵器・土師器片を得た。

上記の結果から、調査地に遺構は存在しないため本調査は不要と判断したが、周囲には存在する可能性があるため、今後実施される土木工事では注意が必要である。



第27図 藤塚遺跡試掘トレンチ配置図

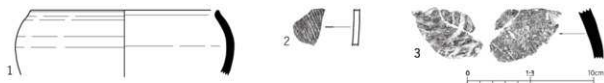


第28図 藤塚遺跡試掘土層概念図



## (2) 遺物

今回の調査出土土器のうち、3点を資料化した。1は須恵器鉢ハツで、器厚は5～7mmである。口縁部下には約1.8cm幅で強いヨコナデを施しており、口縁端部を先鋭化している。口縁部付近で、約6分の1が残存する。2は、外面にハケメを施す土師器甕である。器厚は約5mmで、器形は長胴を呈すると推測できる。3は、須恵器甕の体部破片である。器厚は8～10mm、焼成は良好で色調はやや白色がかかる灰色である。外面のタタキ痕跡は不明瞭で、内面は同心円状の当具痕が残る。



第29図 藤塚遺跡試掘出土土器



第30図 藤塚遺跡試掘出土土器写真

第4表 藤塚遺跡試掘出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
									外面	内面	底部
1	Aトレンチ	5	須恵器	鉢	口縁～ 体部	14.8	復 不明	5.2	残 ロクロナデ	ロクロナデ	不明
2	Aトレンチ	5	土師器	甕	体部	不明	不明	3.0	残 ハケメ	ナデ	不明
3	擁壁西壁	3	須恵器	甕	体部	不明	不明	4.0	残 タタキ (縄目か)	当具痕	不明



1 調査地近景（南から）



2 Aトレンチ遠景（北東から）



3 Aトレンチ調査前（東から）



4 Aトレンチ西壁



5 Aトレンチ西壁（深掘り）



6 Bトレンチ調査前（北から）

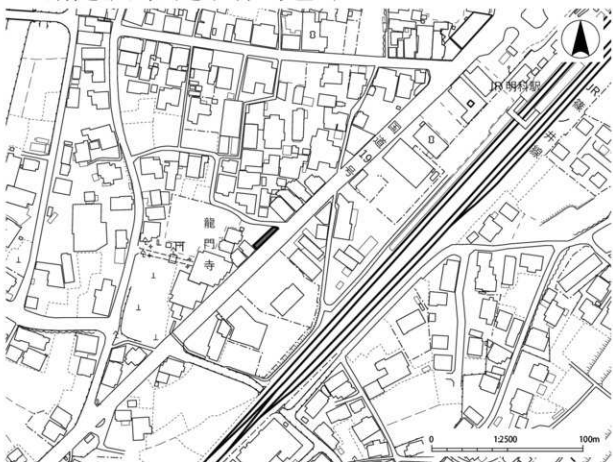


7 Bトレンチ南壁



8 Bトレンチ南壁（深掘り）

## 8 明科遺跡群 県町遺跡 (第1表■92)



第31図 県町遺跡試掘位置図

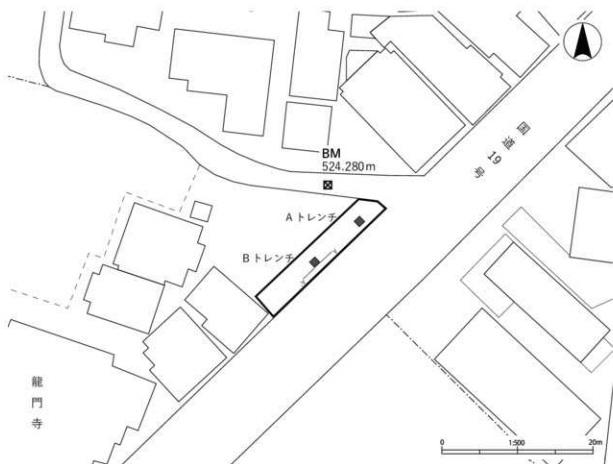
所在地	安曇野市明科中川手3521番9	調査面積	2㎡
調査期間	令和元年(2019)10月1日～令和元年(2019)10月2日	調査契機	道路
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵、望月裕子、小嶋達司、田中富男、中田千春		

### (1) 概要

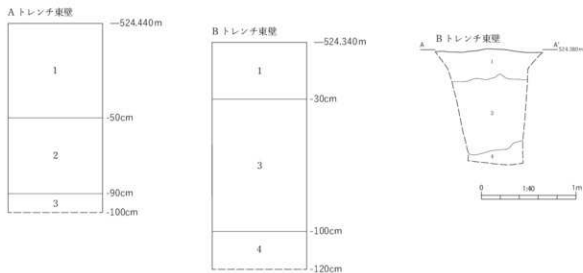
明科遺跡群県町遺跡(以下、「県町遺跡」とする。)は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに本発掘調査を実施した記録はない。

今回は、国道抜幅事業予定箇所に2箇所のトレンチ(A・Bトレンチ)を設定し、試掘調査を実施した。調査の結果、両トレンチとも地表下約30～50cmまで造成土であり、下位は約100cmまで攪乱を受け、レンガやビニールを含んでいた。Bトレンチでは、攪乱の下位20cmまで砂層が残存していた。この層は、明科廃寺の基本層序第Ⅳ層(安曇野市教委2017)に相当すると考えられる。Aトレンチで確認したのは攪乱のみであった。攪乱をうけた排出土から、現代のコンクリート片等に混じって平安時代の須恵器、土師器、瓦の破片が出土した。いずれのトレンチでも、遺構は確認できなかった。

上記の結果から、今回の調査地に明確な埋蔵文化財は残存していないが、周辺で土壌の改変を受けていない箇所では、今後の土木工事等に注意が必要である。



第32図 県町遺跡試掘トレンチ配置図



1. 造成土
2. 現代の覆瓦  
10YR4/2 灰褐色粘土  
しまり強、粘性強  
0.5mm 以下の褐色粒  
30cm 以下の円錐、レンガ、ビニール片を含む  
壁周辺は細粒砂となる  
10YR3/3～5/2 暗褐色粘土のブロックを含む  
ブロック中は褐色粒が多い

3. 現代の覆瓦  
10YR3/2 暗褐色シルト  
しまり強、粘性中  
10cm 以下の円錐、コンクリート片、ビニール、モルタル等を含む
4. 10YR3/3 暗褐色粘土の 15cm 以下のブロックを含む  
しまり弱、粘性弱  
全体的に均質で、油臭がある

※第1～3層の排出土に土層片、古代瓦片が含まれるが、出土層は不明

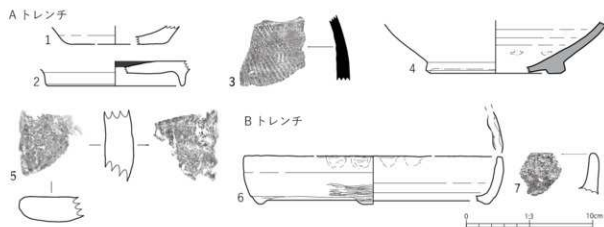
第33図 県町遺跡試掘土層概念図

(2) 遺物

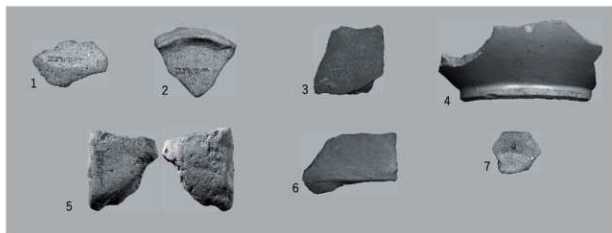
試掘調査出土遺物のうち、7点を資料化した。このうち6点は、土器・陶器類、1点は古代の瓦である。いずれも、現代のコンクリート片等に混入した状態で出土した。

1～5は、Aトレンチ出土遺物である。1は、土師器坏と考えられるが、やや厚みがある。内外面共に器面の摩耗が激しいため、調整は不明瞭である。底部には回転糸切り痕がうっすらと残存する。2は、内面のみ黒色処理をする黒色土器A坑の底部である。1と同様に内外面共に器面の摩耗が激しく、調整は不明瞭である。3は、須恵器壺とした。内面のロクロナデは明瞭に残存し、外面のタタキは部分的にナデ消している。4は、近代の施釉陶器である。5は、古代の平瓦である。厚みは約20mmで、器面は摩耗が激しい。凹面では、布目痕等は明確に観察できない。凸面には、不明瞭ながら縄タタキの痕跡が部分的に残存する。断面形状から側縁部の角をケズリとっていることがわかる。

6・7は、Bトレンチ出土遺物である。いずれも瓦質土器で、焼成は良好である。6は、口縁端部を指頭圧痕により波状に作り出し、底部は脚を有する。器面は全体的にナデ調整されるが、外面下半はミガキも施されている。7は、口縁部のみ資料である。底部下半で屈曲し底部に至る箇所と考えられるが、当該箇所破損している。



第34図 県町遺跡試掘出土遺物



第35図 県町遺跡試掘出土遺物写真

第5表 県町遺跡試掘出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴			
									外面	内面	底部	
1	Aトレンチ	2・3	土師器	坏か	体部～ 底部	不明	7.2	復 1.5	残	ロクロロナデ	ロクロロナデ	回転糸切り
2	Aトレンチ	2・3	黒色土 器A	埴	体部～ 底部	不明	10.0	復 2.2	残	ロクロロナデ	ミガキか+ 黒色処理	ナデか
3	Aトレンチ	2・3	須恵器	壺	体部	不明	不明	不明		タタキ+ナデ	ロクロロナデ	不明
4	Aトレンチ	2・3	陶器	鉢	体部～ 底部	不明	10.4	復 4.2	残	ロクロロナデ+ 軸	ロクロロナデ +軸	回転ヘラケ ズリか
6	Bトレンチ	2・3	瓦質土 器	焙烙か	口縁部～ 底部	20.4	復 19.2	復 3.8	残	ロクロロナデ+ 指頭圧痕+ ミガキ	ロクロロナデ	不明
7	Bトレンチ	2・3	瓦質土 器	焙烙か	口縁部～ 体部	不明	不明	不明		ナデ	ナデ	不明

※5は平瓦のため、第5表には掲載しない。



1 調査地近景 (北から)



2 調査状況 (北東から)

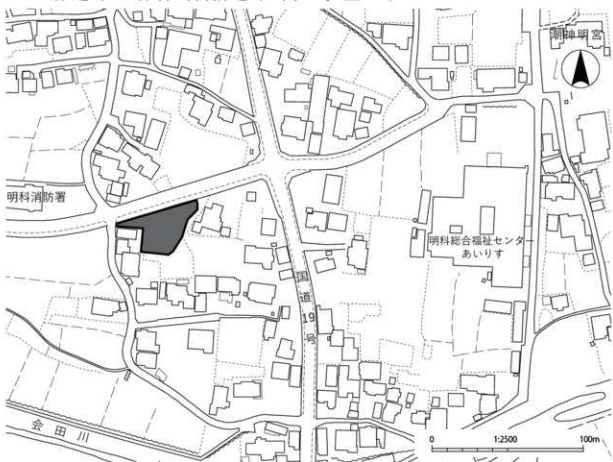


3 Aトレンチ東壁



4 Bトレンチ東壁

うしお うしおしんめいぐうまま  
**9 潮遺跡群 潮神明宮前遺跡 (第1表■142)**



第36図 潮神明宮前遺跡試掘位置図

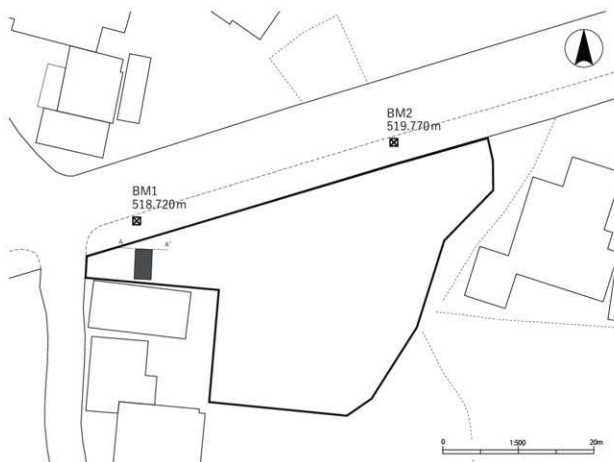
所在地	安曇野市明科東川手509番2外2筆	調査面積	8㎡
調査期間	令和元年(2019)12月11日	調査契機	その他開発(太陽光発電施設)
調査参加者	土屋和章、横山幸子、田多井智恵、望月裕子		

(1) 概要

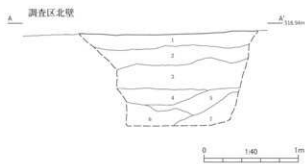
潮遺跡群潮神明宮前遺跡(以下、「潮神明宮前遺跡」とする。)は、犀川右岸の段丘上に所在する古墳～平安時代の集落跡である。この遺跡では、これまでに3次の発掘調査を実施し当該期の集落跡のほか、古墳時代後期の円墳3基を確認している(明科町教委2000・2005、安曇野市教委2019b)。

今回は、太陽光発電施設のうち、浸透施設箇所を試掘を実施した。掘削箇所には、2.2×3.8m、深度約100cmのトレンチを設定し調査を行った結果、南半分は攪乱、北半分ではシルトが良好に残存していたが、遺構等は存在しなかった。第2層に、時期不明の微細土器片がごく少量含まれていたが摩耗が激しい。

上記の結果から、浸透施設設置箇所には埋蔵文化財が存在しないため、発掘調査は不要と判断した。



第37図 潮神明宮前遺跡試掘トレンチ配置図



1. 表土
2. 10YR4/3 にふい黄褐色シルト  
しまり強、粘性強  
粒状の土塵片、炭化物を含む
3. 10YR4/2 灰黄褐色粘土  
しまり強、粘性強  
黄褐色粘土粒 (10YR5/6) が散在し、量は 6 : 4  
炭化物を含む、径 3cm 程度の円礫を微量に含む
4. 10YR4/2 灰黄褐色粘土  
しまり中、粘性強  
黄褐色粘土粒 (10YR5/6) が散在し、量は 8 : 2
5. 10YR4/3 にふい黄褐色シルト  
しまり中、粘性強  
黄褐色粘土粒 (10YR5/6) が散在し、量は 9 : 1
6. 10YR4/1 褐色粘土  
しまり中、粘性強  
径 10cm 程度の円礫を微量含む
7. 礫  
しまり弱、粘性弱  
基質は極細粒砂で礫支持  
最大径 15cm、平均径 2cm の円礫からなる

第38図 潮神明宮前遺跡試掘セクション図





1 調査地近景 (南西から)



2 調査前 (北から)



3 調査前 (東から)



4 トレンチ完掘 (南から)



5 トレンチ北壁 (分層前)



6 トレンチ北壁 (分層後)

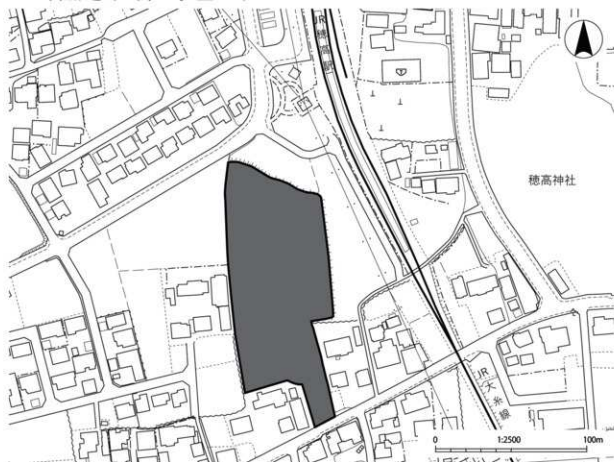


7 出土土器



8 表面採集土器

みやわき  
10 宮脇遺跡 (第1表■168)



第39図 宮脇遺跡試掘位置図

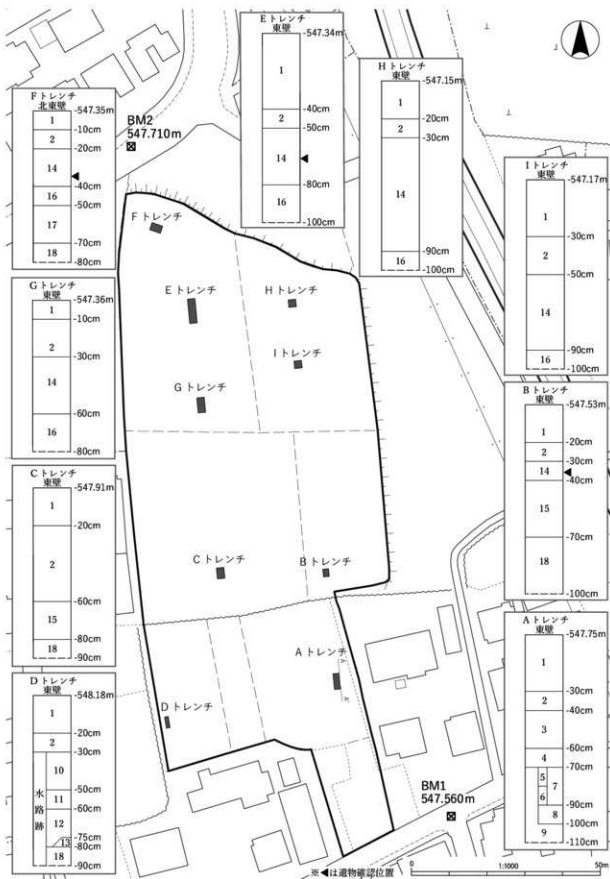
所在地	安曇野市徳高6571番外	調査面積	56㎡
調査期間	令和2年(2020)2月5日～令和2年(2020)2月7日	調査契機	その他の建物(福祉施設)
調査参加者	山下泰永、土屋和章、横山幸子、田多井智恵、望月裕子		

## (1) 概要

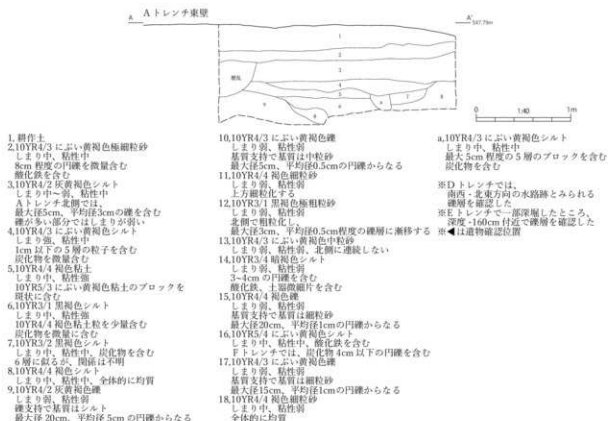
宮脇遺跡は、烏川扇状地扇尖に所在する弥生・平安時代及び中世の集落跡である。この遺跡では、平成28年度に宅地造成に際し浸透樹掘削箇所で大規模な発掘調査を実施した(安曇野市教委2018)。

今回は、雨水浸透施設2箇所、建物基礎6箇所、緑地1箇所にA～Iトレンチを設定し、最大で深度約160cmまで調査を実施した。Aトレンチで第5～8層を切るシルトを確認したが、樹木痕であると判断した。B・E・Fトレンチの第14層からごく少量の土器片が出土したが、風化が激しく、主体的な出土状況ではなかった。Dトレンチでは、近世以降とみられる水路跡を確認したが、その他の遺構は確認できなかった。

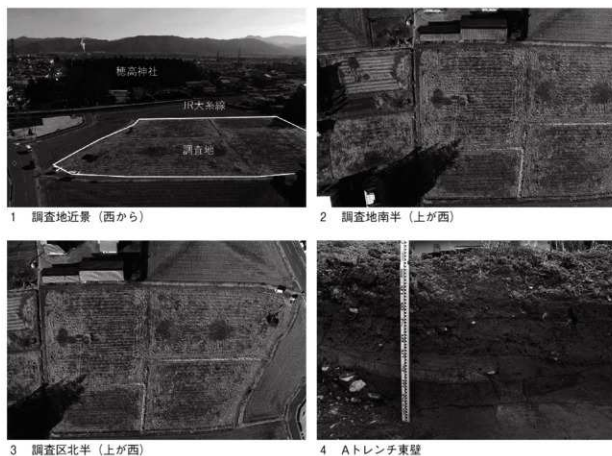
上記の結果から、今回の調査地には遺構等は存在しないため、発掘調査は不要と考える。



第40図 宮脇遺跡試掘トレンチ配置及び土層概念図



第41図 宮脇遺跡試掘セクション図





5 Bトレンチ東壁



6 Cトレンチ東壁



7 Dトレンチ東壁



8 Eトレンチ東壁



9 Fトレンチ南西壁



10 Gトレンチ東壁



11 Hトレンチ東壁



12 Iトレンチ東壁

## 第3章 工事立会

1 おっぼり  
追堀遺跡 (第1表●29)

第42図 追堀遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市穂高柏原1583番3	調査契機	ガス・水道・電気等
調査期間	平成31年(2019)4月25日～令和元年(2019)5月30日	調査担当者	横山幸子

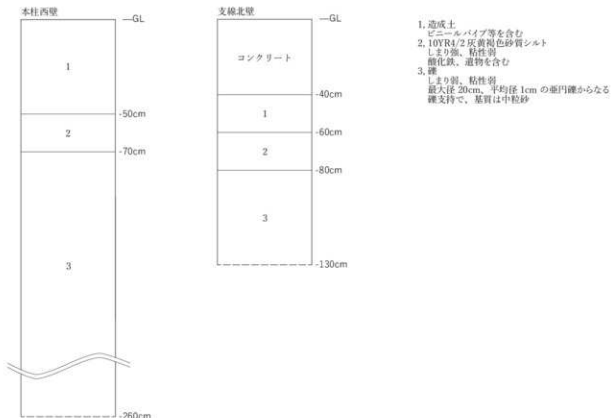
## (1) 概要

追堀遺跡は、烏川扇状地扇央に所在する平安時代の集落跡である。この遺跡では、平成29年度に第1次発掘調査を実施しているほか、複数回の試掘・工事立会で当該期の遺物の出土を確認している。

土層観察は、施工箇所のうち最も南側の電柱及び支線の設置箇所で行った。地表下50～60cmまでは、宅地造成時の造成土であり、下位は地表下70～80cmまでシルト層で、さらに下位の地表下260cmまでは礫層であった。シルト層は平安時代の土器片を包含する。遺構は確認できなかった。また、既存電柱の抜柱箇所では、土層の詳細な観察はできなかった。

上記の結果から、本件工事による埋蔵文化財への影響は少ないが、平成31年1月には、この場所において宅地造成に伴う工事立会で多量の平安時代の土器が出土しており(安曇野市教委2020)、今後の土木工事では注意が必要である。

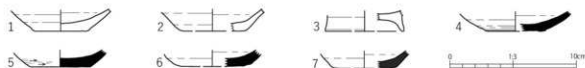
### 第3章 工事立会



第43図 追堀遺跡工事立会土層概念図

#### (2) 遺物

試掘調査出土遺物のうち、7点を資料化した。1・2は、ロクロ成形の土器器坏である。いずれも内面の底部・体部境界には明瞭な稜がなく、なだらかに立ち上がる。3は、土器器坏の台部である。底部での残存率は、8分の1以下であった。4～6は、須恵器坏の底部付近である。底部切り離しは、4・6が回転糸切り、5が回転ヘラケズリであった。5は、底部切り離し後のケズリ調整が体部外面にも及び、ケズリ方向は左から右である。7は、軟質須恵器坏の底部である。



第44図 追堀遺跡工事立会出土土器



第45図 追堀遺跡工事立会出土土器写真

第6表 追堀遺跡工事立会出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴			
									外面	内面	底部	
1	不明	2	土師器	環	体部～ 底部	不明	4.4	復 1.8	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
2	不明	2	土師器	環	体部～ 底部	不明	5.2	復 1.3	残	ロクロナデ	ロクロナデ	不明
3	不明	2	土師器	埴	台部	不明	6.2	復 1.7	残	ロクロナデ	ロクロナデ	ナデ
4	不明	2	須恵器	環	体部～ 底部	不明	4.8	復 1.6	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケ ズリ+ナデ
5	不明	2	須恵器	環	体部～ 底部	不明	5.0	復 1.4	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転ヘラケ ズリ
6	不明	2	須恵器	環	体部～ 底部	不明	5.0	復 1.3	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り
7	不明	2	軟質 須恵器	環	体部～ 底部	不明	4.8	復 1.4	残	ロクロナデ	ロクロナデ	回転糸切り



1 施工状況（南東から）



2 施工状況（北から）



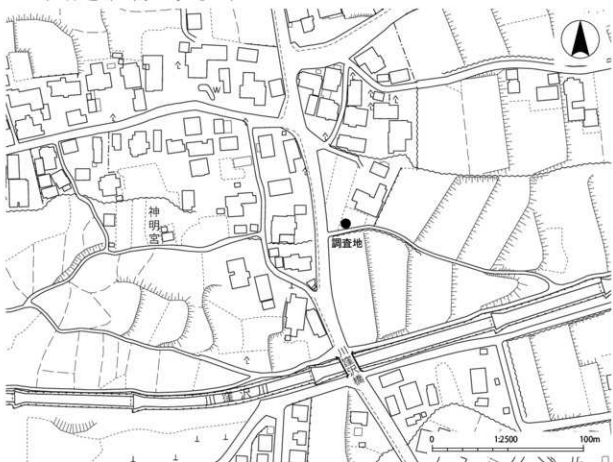
3 支線掘削北壁



4 本柱掘削西壁



## 2 他谷遺跡 (第1表●58)



第46図 他谷遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市穂高牧850番	調査契機	ガス・水道・電気等
調査期間	令和元年(2019)7月26日	調査担当者	土屋和章

### (1) 概要

他谷遺跡は、川窪沢川左岸に所在する縄文時代及び中世の集落跡である。この遺跡では、平成11年度に第1次発掘調査を実施しているほか、工事立会等で縄文時代の遺物出土を確認している。

今回は電柱支線新設に伴う掘削で、深度70cm程度の地点から縄文土器が出土した。掘削面積が1㎡以下と狭小であるため、遺構等は確認できていない。

上記の結果から、施工地には埋蔵文化財が良好に残存している可能性が高いことを確認した。また、本件工事は掘削面積がごく狭小であるため、埋蔵文化財への影響は軽微であると判断した。

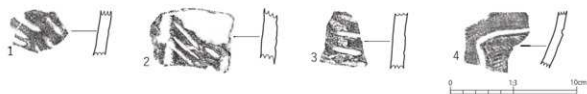


第47図 他谷遺跡工事立会土層概念図

## (2) 遺物

工事立会での出土土器のうち、有文破片4点を資料化した。いずれも、縄文土器深鉢の体部破片である。

1～3は、斜め方向に短沈線を充填する文様である。短沈線は、幅4～5mmで断面は浅いU字状を呈する。充填密度は疎で、綾杉状の意匠が簡略化したものと考えられる。2は、隆帯で縦方向の区画をしている。4は、磨消縄文で文様を描くが全容は不明である。縄文原体はRLで、緻密である。この4点の他、無文破片が数点出土した。



第48図 他谷遺跡工事立会出土土器



第49図 他谷遺跡工事立会出土土器写真

第7表 他谷遺跡工事立会出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
									外面	内面	底部
1	不明	1	縄文土器	深鉢	体部	不明	不明	4.0	残 ナデ+沈線	ナデ	不明
2	不明	1	縄文土器	深鉢	体部	不明	不明	4.8	残 ナデ+隆沈線	ナデ	不明
3	不明	1	縄文土器	深鉢	体部	不明	不明	4.7	残 ナデ+沈線	ナデ	不明
4	不明	1	縄文土器	深鉢	体部	不明	不明	5.1	残 RL縄文+ 沈線+ナデ	ナデ	不明



1 調査地遠景 (東から)



2 調査地近景 (東から)

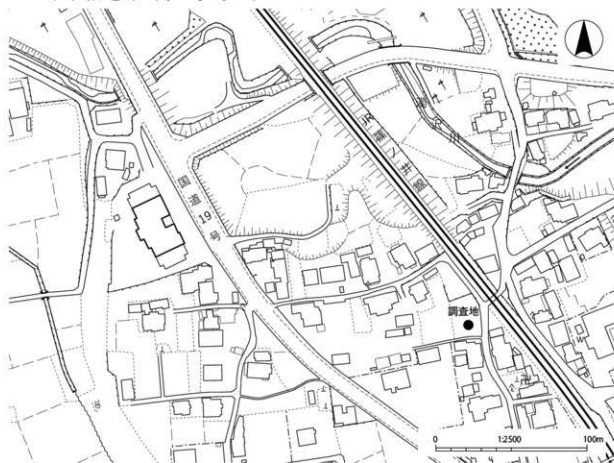


3 施工箇所



4 施工状況

### 3 小瀬幅遺跡 (第1表●91)



第50図 小瀬幅遺跡工事立会位置図

所在地	安曇野市豊科田沢4858番8	調査契機	個人住宅
調査期間	令和元年(2019)10月2日	調査担当者	土屋和章

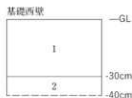
#### (1) 概要

小瀬幅遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する弥生・平安時代の散布地である。この遺跡では、平成29年度に個人住宅建設に際し第1次発掘調査を実施しているほか、工事立会等で当該期の遺物出土を確認している。

工事立会は、個人住宅建設にかかる基礎掘削に際して実施した。宅地造成時の造成土は大部分が除去された状態で、基礎掘削は造成土下から深度約40cmであった。第2層としたシルトは、部分的に粉末炭化物、また微細な弥生土器片を少量包含していた。このため、一帯で遺構の平面検出を試みたが、遺構平面形は確認できなかった。

上記の結果から、本件工事は埋蔵文化財に直接の影響を与えていないと判断できるが、施工地周辺には弥生時代の遺構が存在する可能性が高い。

### 第3章 工事立会

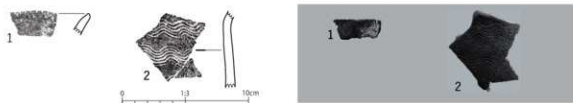


1. 表土、造成土
2. 10YR4/3 に近い黄褐色シルト  
しまり中、粘性中  
径 0.5mm 程度の小礫を少量含む  
炭化物、弥生土層片を含む

第51図 小瀬幅遺跡工事立会土層概念図

#### (2) 遺物

今回の工事立会出土土器を2点資料化した。1は、弥生土器甕の口縁部破片で、口縁端部にキザミを施す。器面は、内外ともに摩耗が激しい。2は、弥生土器甕の体部破片である。5条一単位の縞描波状文が3段以上施される。いずれも弥生時代中期後半に帰属する。



第52図 小瀬幅遺跡工事立会出土土器

第8表 小瀬幅遺跡工事立会出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴		
									外面	内面	底部
1	不明	2	弥生土器	甕	口縁部	不明	不明	1.7	残 ナデ	不明	不明
2	不明	2	弥生土器	甕	体部	不明	不明	9.1	残 縞描波状文	不明	不明

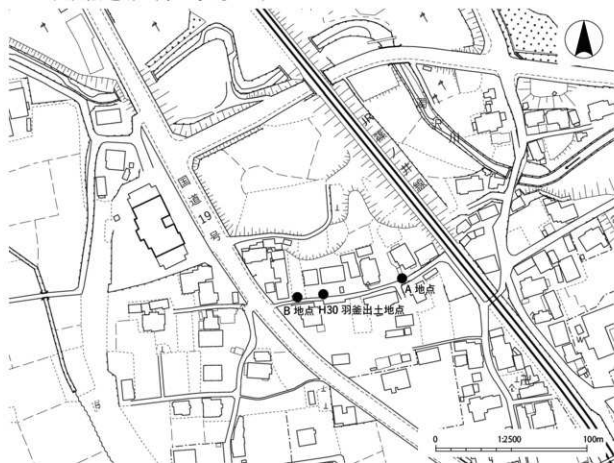


1 調査地近景 (東から)



2 基礎掘削東壁

#### 4 小瀬幅遺跡 (第1表●123)



第53図 小瀬幅遺跡工事立会位置図

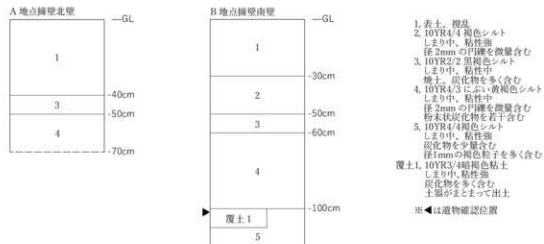
所在地	安曇野市豊科田沢4761番地1先外	調査契機	道路
調査期間	令和元年(2019)10月18日～令和元年(2019)11月20日	調査担当者	土屋和章、横山幸子

##### (1) 概要

小瀬幅遺跡は、犀川右岸の河岸段丘上に所在する弥生・平安時代の散布地である。この遺跡では、平成29年度に個人住宅建設に際し第1次発掘調査を実施しているほか、工事立会等で当該期の遺物出土を確認している。

工事立会は市道豊科4067号線改良工事に際し、A地点(10月18日)とB地点(11月20日)において擁壁設置掘削に際し土層観察を実施した。観察した土層は、別紙概念図のとおりである。第3層を鍵層として、両地点の土層を対比できる。A地点では、第4層の黄褐色土までの掘削であったため、遺構等は確認していない。B地点では第5層上面で、土器がまとめて出土し、遺構の平面形を確認した。この地点は、平成30年度に土師器羽釜がまとめて出土した地点に近い。

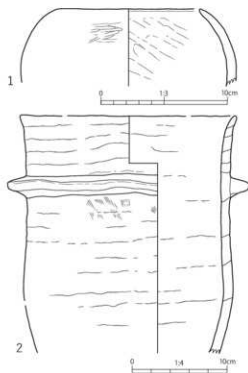
上記の結果から、本件施工地では地下100cm付近に平安時代と推定できる遺構等が良好に残存しており、今後の土木工事等に際しては留意する必要がある。



第54図 小瀬幅遺跡工事立会土層概念図

(2) 遺物

今回の工事立会で、B地点から出土した土器2点を資料化した。1は、弥生土器無頸壺の口縁部～体部である。外面は丁寧なミガキ、内面は指ナデ後に部分的なミガキを施す。本資料は、弥生時代後期に比定できる。2は、平安時代の土師器羽釜である。口縁部は正円とならず、楕円形状である。底部は欠損している。罫は約4分の1周が残存しており、貼付の痕跡が見られる。内外面共に器面調整は粗雑で、特に外面は全体的に輪積み痕跡が残る。



第55図 小瀬幅遺跡工事立会出土土器

第9表 小瀬幅遺跡工事立会出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴				
									外面	内面	底部		
1	B地点	覆土1	弥生土器	無須壺	口縁部～ 体部	114	復	不明	61	残	ヨコミガキ	指ナデ+ ミガキ	不明
2	B地点	覆土1	土師器	羽釜	口縁部～ 体部	236	実	不明	250	残	ハケメ+ ナデ	ナデ	不明



1 A地点近景（東から）



2 A地点北壁



3 B地点近景（南東から）



4 B地点遺構確認状況（西から）



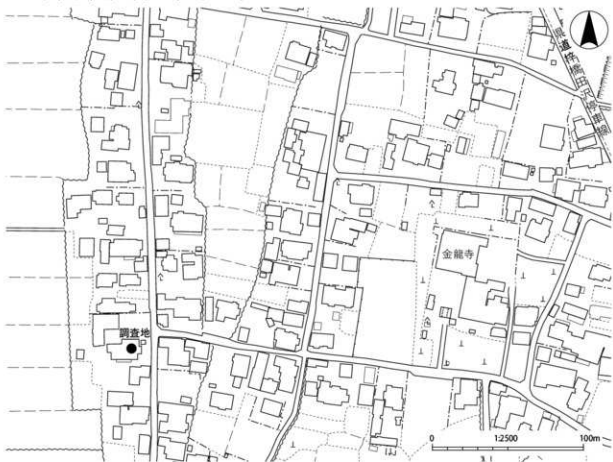
5 B地点東壁



6 B地点土器出土状況



## 5 真光寺跡 (第1表●125)



第56図 真光寺跡工事立会位置図

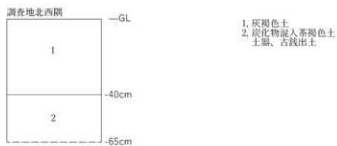
所在地	安曇野市豊科高家6127番4	調査契機	個人住宅
調査期間	令和元年(2019)11月21日	調査担当者	山下泰永

### (1) 概要

真光寺跡は、真々部に所在したとされる七寺の一つとされる中世の社寺跡である。住吉山真光寺は明治4年(1871)に廃仏毀釈で廃寺となり、明治16年(1883)に一日市場(三郷明盛)に興国山真光寺として再興された(豊科町誌編纂委1995)。この遺跡では、本格的な発掘調査を実施した記録はない。

本件施工地は、以前住宅が建っていた場所であるため、攪乱が多岐みられた。今回基礎掘削された箇所内、攪乱を受けていないのは北西隅のみである。その他の掘削箇所には、従前の建物の土壁のかから、塩化ビニールのパイプ等が混入していた。

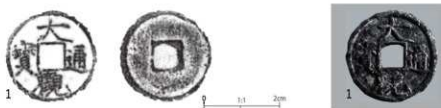
北西の隅の土層のうち第2層からは、土師質の土器片1点及び「大観通寶」が出土した。



第57図 真光寺跡工事立会土層概念図

## (2) 遺物

工事立会出土遺物のうち、古銭1点を資料化した。出土したのは「大観通寶」（初鑄1107年）である。残存状況は良好であった。第2層からの出土であるので後世の攪乱ではないが、埋没年代は絞り込めないため中世以降とする。



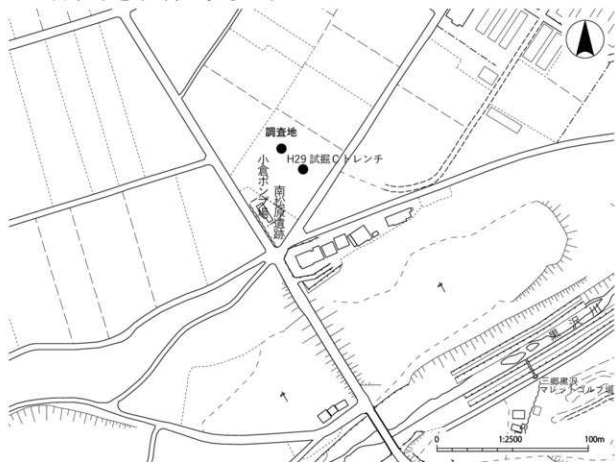
第58図 真光寺跡工事立会出土遺物



1 施工状況



2 基礎掘削断面

6 みなみまつばら 南松原遺跡 (第1表●160)


第59図 南松原遺跡工事立会位置図

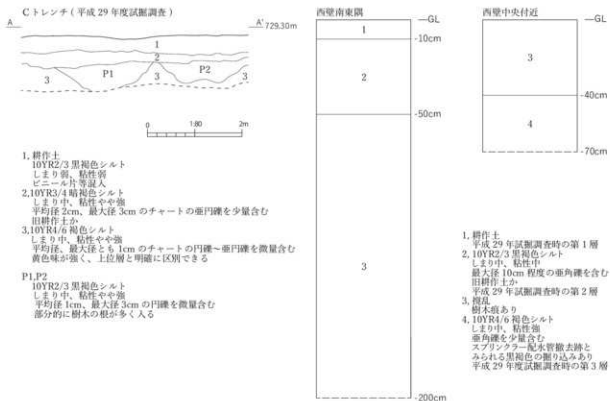
所在地	安曇野市三郷小倉1917番1	調査契機	その他開発(畑地造成)
調査期間	令和2年(2020)1月24日	調査担当者	横山幸子

## (1) 概要

南松原遺跡は、黒沢川左岸の段丘上に所在する縄文時代の集落跡である。この遺跡では、昭和45年度に発掘調査を実施しており、縄文時代中期の集落跡を確認した。また、今回の施工地では平成29年度に安曇野市教育委員会が試掘調査を実施した(安曇野市教委2019a)。

工事立会は、切土掘削に際し土層観察を実施した。敷地南西隅では、耕作土直下に厚さ150cm以上の攪乱を確認した。西壁では、攪乱の下位に第4層のシルトが露出した。このシルト層は平成29年度試掘調査の第3層に対比できる。なお、第4層中には黒褐色シルトの掘り込みがあったが、果樹栽培用スプリンクラーの抜き取り跡と判断した。土中から遺物は出土しなかったが、切土掘削の排出土から少量の土器片が得られた。遺構、炭化物は確認できなかった。

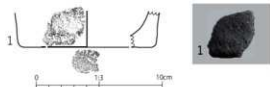
上記の結果から、本件工事は埋蔵文化財に新規の影響を与えていないと判断した。



第60図 南松原遺跡工事立会土層概念図

## (2) 遺物

今回の工事立会では、4点の縄文土器片を確認した。いずれも文様は確認できないが、器厚・焼成から縄文中期に比定できる。1は、縄文土器の深鉢底部破片である。無文の破片で、内外面共にナデ調整を施す。



第61図 南松原遺跡工事立会出土土器

第10表 南松原遺跡工事立会出土土器観察表

No.	遺構等	層位等	種別	器種	残存部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	技法の特徴				
									外面	内面	底部		
1	不明	不明	縄文土器	深鉢	体部下 半～ 底部	不明	11.0	復	2.9	残	ナデ	ナデ	調整なし



1 切土西隅



2 切土（南東から）



3 切土（北西から）



4 切土（南西から）



5 調査地近景（北東から）



6 調査地近景（北西から）



7 調査地近景（南東から）



8 配水管痕跡

## 引用・参考文献（五十音順）

- 明科町教育委員会 2000 「潮神明宮前遺跡—明科町総合福祉センター建設に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財第8集 明科町教育委員会
- 明科町教育委員会 2005 「潮神明宮前遺跡Ⅱ—町道拡幅改良工事に伴う緊急発掘調査報告書—」明科町の埋蔵文化財第13集 明科町教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2009 「三枚橋・藤塚遺跡—安曇野市穂高交流学習センター建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財第2集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2017 「明科遺跡群明科庵寺4—個人住宅建設に伴う第4次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財第12集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2018 「平成28年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書」安曇野市の埋蔵文化財第15集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019a 「平成29年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書」安曇野市の埋蔵文化財第17集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2019b 「潮遺跡群潮神明宮前遺跡3—安曇野市消防団第7分団第1部詰所新築工事に伴う第3次発掘調査報告書—」安曇野市の埋蔵文化財第18集 安曇野市教育委員会
- 安曇野市教育委員会 2020 「平成30年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書」安曇野市の埋蔵文化財第19集 安曇野市教育委員会
- 豊科町誌編纂委員会編 1995 「豊科町誌 歴史編・民俗編・水利編」豊科町誌刊行会

## 調査報告書抄録

ふりがな	へいせい31・れいわがねんどあづみのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ								
書名	平成31・令和元年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書								
副書名									
巻次									
シリーズ名	安曇野市の埋蔵文化財								
シリーズ番号	第22集								
編著者名	土屋和章、中谷高志								
編集機関	安曇野市教育委員会								
所在地	〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地 TEL 0263-71-2000								
発行年月日	西暦2020年10月30日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因	
		市町村	遺跡番号						
大坪沢遺跡	長野県安曇野市 穂高柏原1711番2	2020	2-42	36° 19' 47"	137° 53' 04"	20190402 ～ 20190416	154㎡	宅地造成	
八ツ口遺跡	長野県安曇野市 穂高1430番1外1筆	2020	2-56	36° 19' 45"	137° 53' 46"	20190508 ～ 20190509	6㎡	宅地造成	
宗徳寺遺跡	長野県安曇野市 穂高7137番3外14筆	2020	2-39	36° 20' 04"	137° 52' 49"	20190516 ～ 20190516	5㎡	庫裏	
明科遺跡群 栄町遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3728番17	2020	5-411	36° 21' 18"	137° 55' 50"	20190604 ～ 20190604	3㎡	道路	
明科遺跡群 泉町遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3767番18	2020	5-410	36° 21' 12"	137° 55' 43"	20190703 ～ 20190703	10㎡	道路	
追福遺跡	長野県安曇野市 穂高柏原1672番2	2020	2-45	36° 19' 45"	137° 53' 16"	20190719 ～ 20190805	12㎡	宅地造成	
藤塚遺跡	長野県安曇野市 穂高6761番2外3筆	2020	2-38	36° 19' 56"	137° 53' 13"	20190711 ～ 20190821	12㎡	宅地造成	
明科遺跡群 泉町遺跡	長野県安曇野市 明科中川手3521番9	2020	5-410	36° 21' 11"	137° 55' 41"	20191001 ～ 20191002	2㎡	道路	
潮遺跡群 神明宮前遺跡	長野県安曇野市 明科東川手509番2 外2筆	2020	5-501	36° 21' 35"	137° 55' 48"	20191211 ～ 20191211	8㎡	太陽光 発電施設	
宮脇遺跡	長野県安曇野市 穂高6571番外	2020	2-34	36° 20' 15"	137° 52' 53"	20200205 ～ 20200207	56㎡	福祉施設	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大坪沢遺跡	集落跡	平安	竪穴建物跡1	須恵器、土師器	宅地造成東辺擁壁掘削で遺構を確認した。
ハツ口遺跡	集落跡	奈良時代 平安時代 中世	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
宗徳寺遺跡	集落跡	平安時代	なし	土師器小破片（古墳時代）	地表下100cm付近から土器小破片が出土した。
明科遺跡群 采町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
明科遺跡群 県町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
追風遺跡	集落跡	平安時代	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
藤塚遺跡	集落跡	古墳時代 平安時代	なし	須恵器、土師器	須恵器鉢が出土した。
明科遺跡群 県町遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	土師器、黒色土器A、須恵器、施釉陶器、平瓦（古代）	攪乱に遺物が混入していた。
瀬道跡群瀬神明 宮前遺跡	集落跡	古墳時代 奈良時代 平安時代	なし	微細土器片（時期不明）	微細土器片のみを確認した。
宮脇遺跡	集落跡	弥生時代 平安時代 中世	なし	なし	埋蔵文化財を確認せず。
要約	<p>平成31・令和元年度に長野県安曇野市内で実施した埋蔵文化財保護措置及びこれに伴う試掘・工事立会の結果を掲載した。発掘調査等の総数は全189件で、このうち188件を安曇野市教育委員会が主体となって実施した。なお、この内訳は発掘調査1件、試掘9件、工事立会98件、慎重工事80件である。</p> <p>小規模発掘調査・試掘の成果については、10件を掲載した。大坪沢遺跡では、宅地造成に伴う調査で東辺擁壁設置箇所から竪穴建物跡と考えられる平面形を検出した。宗徳寺遺跡・瀬道跡群瀬神明宮前遺跡では、調査区内から土器小破片が出土したが、これに伴う遺構等は確認できなかった。藤塚遺跡では、遺物包含層から須恵器鉢が出土した。明科遺跡群県町遺跡では、現代の攪乱中に古代の土器類・平瓦が混入していた。これ以外の5件の試掘では、埋蔵文化財は確認していない。</p> <p>この他、遺物が出土した工事立会の成果を6件掲載した。追風遺跡では、電柱工事に際し平安時代の土器類破片が出土した。他谷遺跡でも、電柱工事に際し縄文土器破片が出土した。小瀬幅遺跡では、個人住宅建設に際し、弥生土器が出土した。また同じく小瀬幅遺跡の市道改良工事では、土師器羽釜等が出土した。この箇所は、平成30年度に羽釜が出土した地点に近い。真光寺跡では、個人住宅建設に際し大甕通寶を確認した。南松原遺跡では、平成29年度に試掘を実施した地点で畑地造成の工事立会を行い、縄文土器小破片を確認した。</p>				



安曇野市の埋蔵文化財第22集

平成31・令和元年度安曇野市埋蔵文化財調査報告書

---

発行 令和2年(2020)10月30日  
安曇野市教育委員会  
〒399-8281 長野県安曇野市豊科6000番地  
電話0263-71-2000

編集 安曇野市教育委員会  
印刷 藤原印刷株式会社

